

講談本の研究について

付 講談登場人物索引, 講談小題・異名索引

中 込 重 明

はじめに
文学と講談
研究の意義
研究の現状

付 講談登場人物索引
講談小題・異名索引

はじめに

かつて日本中に講談本が溢れていた。娯楽として講談本に親しみ、講談本をとおして歴史に馴染み、教養を身につけ、時に啓発の材とした。

しかし、去るもの日々に疎く、花を散らした桜を振り向かぬ如く、その隆盛を顧みることが少ない。それでも、たまさかこの事実に向けた発言もある。例えば、橋本治氏は三遊亭円朝の存在に現在は圧されてはいるものの、講談こそが往時の“物語”の王者だったと喝破。さらに、講談の時代を大衆文化の中生代“恐竜全盛期”と仮定した上で言う。「絶滅した恐竜は、僅か化石となって発見されるだけで現実には存在しない。だから、講談本は古本屋にしかない一冊である一だがしかし、古本屋にさえ講談本はない！」(河出書房新社『橋本治雑文集成パンセ3』河出書房新社1990年刊)。実際には古本屋等で入手が可能でないこともないが、ほぼ言い得て然り。夥しくあったと思われる現実を考えれば、まさに雲散霧消の講談本。中村幸彦氏、延広真治氏の提言や、最近では講談・落語の研究意義を訴える鈴木貞美氏の発言もあるが、まだまだ大学をはじめ研究機関でも講談に対し、文芸的にも芸能としてもほぼ無関心。仮に、現在の国文学専攻の学生に“知っている講談を言え”と問えば、異国の作家であるドストエフスキーの小説作品はスラスラ挙げられても、講談の作品は一つも浮かばず絶句することが少なくあるまい。このように、講談の文化的な価値が今日決して高いとは言えないのである。

なお、ここにおける講談本とは、講談師の口演を速記者が書き留めた、速記本。口演されたものではなく、編者によって講談風に話を構成した、いわゆる書き講談。また、講談本としての認識があった立川文庫の類。以上を講談本の範疇とする。

踊子はをちさんをちさんと言いながら、鳥屋に「水戸黄門漫遊記」を読んでくれと頼んだ。しかし鳥屋はすぐ立って行った。(略) 私は一つの期待を持って講談本を取り上げた。果して踊子がするすると近寄って来た。

これは『伊豆の踊り子』の一節である。見たように我々がよく知る小説からも庶民への広い講談本の普及度が伺い知れる。また、科学者・湯川秀樹はこう述懐する。「中年以上の人なら、たいていの人が思い出を持っているであろう、立川文庫」(『旅人ある物理学者の回想』朝日新聞社 1958年刊)。これは初版が昭和33年の書。文中の中年以上という点からも講談本の隆盛期が推して図られる。なお、現段階で出版が判明している立川文庫については、「立川文庫の目録」(『少年小説大系』別巻2 三一書房 1995年刊 収録)が詳しい。

それについても、十把一絡げ、講談本も世に現れては消える流行物の一つにされた感がある。しかし、講談本も物とはいえ本である。グッズや装飾品とは異なり、人と柔軟に知的交流し得た物である。あまり認識されていないようだから書くが、講談本が世間から身を潜めても、今の文化に大きくその影を落としている。庶民のメディア媒体として、現在最も普及したテレビ。そのいわゆるゴールデンタイムに放映される時代劇の周知のレパートリー、水戸黄門・大岡越前・遠山の金さん、その他我々に親しみ深い赤穂義士・鼠小僧次郎吉など。これらが講談本の主人公で、ひいては、その英雄像は講談本によってすでに確立されたものを踏襲した事実を忘れてはいまいか。遡れば、戦前の日本映画と講談本が一脈通じている事実を忘れてはいまいか。また、今でも庶民を楽しませる黙阿弥の歌舞伎もその題材を講談とする物は少なくない。さらに、大衆小説・時代小説と称される分野においても然り。吉川英治の『宮本武蔵』をはじめ、講談本の後塵を拝すものも多い。抑も、大衆小説の母胎なるものが、書き講談を追随したと言われている。だから、近代の大衆文化・娯楽をよりよく調べるのであれば、講談本の存在は等閑には出来まい。二十一世紀間近な今日でも、七十近い方からその上の人に講談本を見せれば、多くの人が“懐しい”と呟く。反論の余地なく、間違いなく講談本は大量の読者を持っていた。そのような世相を記憶の彼方に追いやることなく、きちんと覚えておく義務もあろう。

文学と講談

次に、講談本を文学的な観点から考えていこう。まず、その質に関してだが、過去において文学全集から講談本が冷遇された事態があった。緻密な構成に、穿った心理描写など並の小説以上に読みごたえのある講談本があるにもかかわらず、それはある種の低い文学的評価であった。なるほど、講談の醍醐味は講談師の舌技に委ねられることが多いため、例えば三島由紀夫の『鏡子の家』(新潮社 1959年刊)に「下らない講談雑誌が二三冊」という表現があるように、趣向の使い回しも目立ち、読めば興醒めというものがなくもない(なお、一概に講談雑誌といっても講談以外の探偵小説

等も盛んに掲載されている)。ただ、質を問うのであれば、総ての古典文学作品がこの問いの追究をかわせるか。「文の詞などぞ、昔の反古どもはいみじき」(『徒然草』二十二段)。懐古趣味よろしく、古さといういわば特権が質の問題を超越して優遇されている物が全くないのか。質は文化や古典を尊ぶ上で、とくに守るべき必要条件ではない。もっとも、近代の日本人が親しんでいたとはいえ、講談本を近代文学的に把握してはまずい一面がある。それは、講談本の作者の不鮮明さである。つまり、小説・詩・俳句などと同じく作品はあるものの、その書き手が有耶無耶なのである。もちろん、口演者イコール原作者と判断できるものもあるが、その多くは口演者が、どんなにそこに脚色を施そうと、伝統芸能の枠組みを越えて原作者たりうることはない。また、講談本で厄介なのは、詳しくは後述するが、はっきり作者が判っているものも、著作権渡などでその記名をいじくのが半ば常識。だから、絵画に自らの名を付すようになったというルネッサンス以降の文芸観・芸術観からしても、作者不詳というのならまだしも、誰が書いたとも言えぬ作品に対し、或る種の軽蔑的に扱われるきらいもあろう。これは昔話や落語にもいえることだが、口承文芸の産物として講談本をとらえるのも可能であろう。

さて、そのような講談本を今度は近現代の文学史に歴然とその名を残す作家との関わりで見てみよう。足立卷一氏が『立川文庫の英雄たち』(中央公論社 1987年刊)に引いたが、林芙美子は「文学的自叙伝」(『林芙美子全集』第19巻 新潮社 1952年刊)の「こんな思い出」のなかでこう書いている。「ばん団衛門とか、福島正則横紙破りとか、猿飛佐助の講談本を読む事を覚えた。その頃は、町内にはかならず貸本屋があって、家号のスタンプのはいった厚表紙の講談を始終かりて来たものだった」。また、林より後輩作家の埴谷雄高も随筆「少年時代の漱石」(『埴谷雄高全集』第7巻 講談社 1999年刊収録)で立川文庫に夢中になったこと、やはり、塙団右衛門・三好清海入道の思い出を語る。さらに、埴谷は対談『大岡昇平・埴谷雄高二つの同時代史』(岩波書店 1984年刊)のなかで、こう言う。「『講談雑誌』など、昔はよく読まれていたんだね。だからぼくのはじめの読書体験は雑然としていて、つまり涙香も読めば、『講談雑誌』も読む、立川文庫も読むし、それから『新青年』なんだ」。近代作家のなかでも、およそ観念的として知られる埴谷の初期の読書にも講談本はある。

幼少期、自由に書物の取捨選択できる人はいない。偶然身近にあった本に手を伸ばす。これが古今東西の常であろう。足立氏は前掲書のなかで、中野好夫編『現代の作家』(岩波書店 1955年刊)を参照に、近代作家の多くが講談本を、或いは立川文庫を、その読書体験に持っていることを指摘する。ともかく、講談本は本であり、ここでいう作家とは本を成す職業の人々である。後々の影響の比重は除外しても、この因縁は軽視できない。

もし、近現代の日本文学研究において、ある作家の知的遡源を知るべく、その作家の読書体験が、如何に後々のその作家の作品にかかわるかを、もっとよりよく調べることを望むならば、講談本を全く無視することができようか。もし、ある作家のある作品を解釈する上で、より良い構成・創作源の考慮を期待するならば、常に講談本が

検討外の資料にされていいものだろうか。これは、講談本に限ったことではない。やや脱線するが、明治初期の戯作、明治期の翻案小説、黒岩涙香らの探偵小説等々。これらは日本文学年表とは縁が薄く、まだまだその検証や、他の文芸との比較が手薄である。おそらく、多くの研究者の目が入れば、新たな発見は枚挙に暇がないと信じる。どうも、近代小説を外国文学との比較や、西洋理論の流用によって作品読解することが幅を利かしているようだが（もちろんそれが的をとらえ理に適うことも少なくあるまい）、機に応じて前述したような文芸との検討をもっとするべきだろう。諄くなるが、近現代の日本文学研究において、もし作品・作家の創造の源泉なるものを、その読書体験や傾向から、現在以上に、より広く、より深く、より正しく洞察を加えたく思うのであれば、多くの作家が若い頃に手にしていたという講談本を、いつまでも黙って見逃せるであろうか。志賀直哉は『赤西蠣太』を「伊達騒動の講談を読んでおもいついた」と言っている（『創作余談』『改造』1928年7月号、『志賀直哉全集』第8巻 1974年刊収録）。また幸田露伴の「一口剣」も講談ダネ。これらは明確な例だが、他にも夏目漱石の釈場通いや著作中での講談への言及。森鷗外の『鈴木藤吉郎』（『東京日日新聞』1917年9月6日～18日、『鷗外全集』第18巻 1973年刊収録）や、小泉八雲の奇談や尾崎紅葉、泉鏡花をはじめとする硯友社同人の文芸講談。太宰治の小説。永井荷風、久保田万太郎、吉井勇、長谷川伸らはわざわざ挙げるまでもなし。また、芥川龍之介は小説を作るのに講談を聴く事を勧めている（間宮茂輔「芥川龍之介断片」『新日本文学』1950年7月号収録）。かの江戸川乱歩の明智小五郎のモデルは講談師。近年でも吉行淳之介の講談への関心。作家とはやや離れるが、折口信夫もその「座談」のなかで錦城斎典山など沢山の講談師の名を懐しみを込めて挙げている。これらの他にも、まだまだ考察の余地を残した作家・作品はあろう。少なくとも近代作家が講談本から漢字や表現の言い廻しを覚えたこともあったはずである。だから今後の文学研究においては、講談本にも配慮し、例えばこの作家の読書体験には講談本もあるが、後の作品に何らその影響を及ぼしてはいない、とか結論づければよい。ただ、それには曲がりなりにも熟読とは言わないまでも、一度は講談本に目を通す必要がある。

研究の意義

しかし、ここにとんだツケが回ってくる。冒頭、橋本氏の文を引いたが、講談本を読むどころか、手に入れるのが難しいのである。吉川英治は、上方講談本を貸本屋内の読書で済ませたという、というも「なぜ家で読まないかといえば、義兄に見られても母に見つかっても、叱られるに極っている本だったからである」（『忘れ残りの記』文芸春秋新社 1957年刊）。一昔前の漫画を隠れ読む子供とそれを見つけて怒る親が彷彿できる。また、折口信夫の随筆「寄席の夕立」（『苦楽』4巻10号臨時増刊 1949年、『折口信夫全集』第22巻 1996年刊収録）にもあるように、かつて寄席や釈場には悪場所のイメージがあった。すると、そこで演じられているような話が載って

いる物もよく思われなかったのかもしれない。かかる風潮もあってか、公共・大学図書館での講談本、ならびに講談本研究の文献の収集は遅延を極め、近代文学の研究者をしてもあまり講談本に興味を示さない。あるいは、その大いなる存在に無自覚といった方が正しいか。おそらく、講談本よりも、例えば平安朝の歌集や日記の方が、よっぽど翻刻・文庫化・研究書に恵まれ閲覧に便宜も図れるに違いない。また、漫画、映画についても昨今ではサブカルチャーとして、あるいは一芸術作品として認知され評価を受け文化的な論評もされたりする。これに較べ、およそ市民権を得ていないのが講談本の現状なのである。

本来、講談とは話芸である。釈台を前に張扇片手に軍談や世話講談を読む。今日でもこの芸能の愛好者は少ないながらも存在するが、かつては大衆への講談の浸透度も高く、同時に講談本への愛着も深かった。これは、江戸時代の浄瑠璃と浄瑠璃本の関係に似ている。その見地からも、講談本の文学的な検証は可能ではないか。庶民には縁遠かった脚本をもとに歌舞伎研究が、また、ストーリー性には乏しい浮世絵研究が、盛んに文学畑で行われるようになった今日。実は、これらよりも優先して研究されて然るべき要素を講談本は孕んでいるのではなからうか。なぜなら、講談本は歌舞伎や浮世絵のように、見たり眺めたりする物ではなく、読む物だったのである。この姿を文学研究の視野に入れなくて、何に入れるのか。

研究の現状

以上、これら諸々の理由により講談本研究の意義は、文化的そして文学的な点からも証明されたかと思う。続いては講談本研究の現状について考えてみたい。前に講談本を考える上で昔話と落語を引き合いに出したが、この二つには全集・事典類が様々な出版社から刊行され、基礎的な知識を吸収する手段に事欠かない。一方、講談だが橋本氏が言うように古本屋でもお目に掛かりにくいのであるから、ましてや新本での講談全集類の入手は現在ほぼ不可能。その歴史・作品の梗概等を知るには、『定本講談名作全集』（講談社 1971年刊 全8冊）の別巻「名講談解題」が詳細で便利だが、これとて絶版。さらに、例えば「関口弥太郎」といえば、仇を探して日本全国を巡り、その先々で出くわした難事件を次々に解決する武芸の達人で、この関口を主人公にした講談本はよく読まれたようだが、この関口についての情報が人物事典類に乏しい。要するに、講談本は調べ難いのが実状なのである。ベテランの講談師か、限られた講談通に問い合わせねば調査が進まないと言っても過言ではない。

考えるに、参考書不足の他に講談本研究の初段階で、もどかしさを生じさせるのが、講談本の題名・呼称の不統一さであろう。周知のように、江戸時代から書物が改題され出版されることは何ら珍しくはない。講談本も版元の意向により、著作権渡渡の際など盛んに改題を行うのだが、その杜撰さにかけては他の出版物に類がないとも思える。以前は角書だったものが外題に、改題本が恰も新本のように、あるいは当初原作者名が付されていたのに、改題にあたりそれを外す、もしくはそのところに別人の

名を記す。さらには、以前の奥付のままに改題して出版。果ては速記者の原稿の二重売りも横行。これでは、講談本の正確な書誌をとるには細心の注意が要求される。具体例を示そう。明治18年、桃川如燕の『百猫伝』が鈴木喜右衛門により刊行される。この版權を譲渡した文事堂は、これを『こはだ小平治』という外題で出版。両者は同内容であるが、これでは書名からの連想はしがたい。もう一つ、松林伯円の『開化の魁』の改題本に『高野長英』という本があるが、解題本では松林伯円の名を削り、代わりに青果園と付す。松林伯円が青果園と名乗ったことはなく、青果園とは版元が勝手につけた架空の名前である。

次に、講談の呼称の問題。舌耕芸の性質上、落語もそうだが題名が作品の後を追うものが殆どである。芝居の「与話情浮名横櫛」が“切られ与三”や“お富与三郎”と通称されるのに近いのだが、極端に言えば、講談は演者の数ぐらい呼び方があるともいえ、その紛らわしさは他の芸能に例を見ない。かつて、「伊賀の水月」という題の濫用に或る講談師から苦情がはいったことがある。これは、何が通称で何が本題か、分かりにくいということを如実に物語っている。さらに、講談の一部を抜き出して読む、いわゆる‘抜き読み’の際の題（小題）も、いわば母屋以上に有名になることもあり得る。例えば、「浅妻舟」は今でも高座に屢々かけられる柳沢騒動の一部であるが、「浅妻舟」だけで独立した速記もあり、あるいはこのの方が人に知られているようにも思える。しかし、普通に講談を聴いている限りに置いて、何が小題で、何が通称か、ということは余り考えないはずである。よって、小題であるということを知らなければ、検索に思わぬ時間が掛かりかねない。また、講談本の場合、主人公の名が題名に混じることが多いのだが、生憎そうでないときもある。例えば、鼠小僧次郎吉の講談本を捜すのに、『義賊鼠小僧』は手繰り寄せても『天保怪鼠伝』に目が直ぐ向くだろうか。すなわち、講談はこのような背景を持つため検索しにくい側面が多々ある。

そこで、本稿末尾に講談に登場する人名を挙げ、その次にその人物が関わる講談を記した索引を添えた。前にも書いたように講談の名称は多彩を極めるから、それとわかるように簡略化した記述法をとった。そして、もう一つの索引も掲げる。これは、呼び慣わされている題が二つ以上ある場合、題をそれぞれ挙げ、各々対照させたものと、さらに小題を挙げ、それが何の講談（大題）に所収されているか記した索引である。言うまでもなく、講談の登場人物の数は無数といって差し支えない。だから、そのすべてをカバーするには至らず、もとより不十分の感はある。特に軍談物の登場人物は割愛する事多く、その謗りは免れないとも思うが、僅かでも今後の講談本研究の手掛かりになればと願う次第である。

明治10年代に開発された速記術は、同17年若林珪藏らによる円朝「怪談牡丹燈籠」によって広く世に知られた。それに若干遅れて松林伯円の講談速記本『安政三組盃』が成立する（但し講談速記の第一号には異説あり）。それ以後、書き講談の出現や乱雑な講談本の刊行が始まるため、それ以前の講談本の価値は高い。したがって、より信憑性のある形で講談に近づくためには、まずはともかく明治期の講談本に触れるように努めるべきである。その検索となる資料を以下挙げる。

国立国会図書館図書部編『国立国会図書館蔵書目録 明治期 第6編 文学』
(1994年刊) 「講談・落語」の項目

これは多くの公共・大学図書館に参考図書として常備されており、講談本を知る最も手っ取り早い資料と言える。この目録に記載された書籍は講談本に限らず、すべてマイクロフィッシュ化されており、色彩等の調査には難があるが、これにより内容を知る上ではかつてに較べ格段にその便宜さは増した。ただ、目録上だけでは前述したような別題同本の区別は出来ない。また、この目録に洩れた講談本もないわけではない。とくに大川屋本が極端に少ないと思われている。それを補う意味も込めて、明治期の講談本を知るのに次なる文献。

吉沢英明編『講談明治期速記本集覧 付落語・浪花節』（リプロ 1994年刊）

吉沢英明編『講談明治期速記本集覧 二輯』（吉沢英明 2000年刊）

旭堂小南陵著『明治期大阪の演芸速記本基礎研究』（たる出版 1994年刊）

吉沢氏の著書は私家版で出された物だが、この上なく貴重で講談本研究には必携の書。吉沢氏自ら“原本主義”と称される如く上書に記載された講談本すべてを所蔵。故に、確実な出版物としての存在も証明される。吉沢氏には、他に『講談明治編年史』（昭和52年刊）など講談に関する著作が多いが、個人所蔵に関わる文献としては、いずれも他の追随を許さぬ絶世の大著。余談にわたるが、もし吉沢氏のこれらの収集と仕事がなければ、講談本の研究は雲を掴むが如き事多く、途方に暮れるに少なくないはず。小南陵氏の著書も詳細に整理がなされた重要な参考資料。有難いことに、これはまだ入手しやすい。他に、延広真治氏の「講談速記本ノート」。これは『民族芸能』昭和56年7月から平成3年11月（第183～307号）百回連載（休載含む）の労作。様々な講談の梗概・原話が記されている。そして、日本唯一の講談専門誌『講談研究』（昭和28年創刊）。講談へのひたむきな情熱をもとに毎月発行を続け現在に至る。この雑誌でしか分からない貴重な記述が満載。講談研究会発行。編集発行人・田邊孝治氏。以上、講談本研究の基礎的資料の紹介。

これまで、話が文化云々となると、どちらかと言えば、概ね深刻なもの、書物で言えば、筋に乏しいもの、なにやら意味深長なテーマを追うもの、そのような傾向のものばかりを重視し評価しなかったとは否定しきれまい。一方、面白みや、趣向に富むもの、笑いの要素が多いものなどを軽んじるきらいがなかったとも言い切れまい。けれども、常に文化の屋台骨を支える大多数の庶民は、何を余暇の友とし、何に精神の安らぎを求めるのか。難解で、昔も今も恐らく将来も、決して多くの読者を獲得し得ないであろう書物を、恰も崇高な文化遺産のように、その真価もおぼつかないままに無闇に有り難がってはいないか。一方、多くの読者を得た書物は、時が経ちその役割を世間が求めなくなると、“通俗”の名の下に食わず嫌いを決め込まれ、ないがしろに一蹴される。繰り返すようだが、万一質が低くとも、どのような書物も文化遺産になりうる。だから、我々があらゆる書物文化の継承を望むならば、なにより図書館をはじめ公共機関が講談本、そして講談研究の文献にも、より強い関心を示すのが、ある意味の社会的責務ではないか。

付 講談登場人物索引 (五十音順人名から講談本・演目がわかる)

前に述べたように、講談本に主人公の名が含まれているものは検索し易い（特に頭から人名ではじまるもの）。しかし、主人公の名でさえも講談本の題名に見えぬものや、いわゆる「抜き読み」の際に専ら読まれるだけの人物も少なくない。それらの情報から講談本を抽出するのは困難である。かような事態の便宜を少しでも図るための索引である。人名の五十音順から引く「講談登場人物索引」に続き、異名・小題の五十音順から引く「講談小題・異名索引」を設けた。以下、この索引を使用する際の留意点を挙げておく。なお、人名索引とあるが、動物の名前も含む。

留意点

- (1) 「→」に以下書かれたのが必ずしも講談本そのものの外題を指しているとは限らない。また、講談師が隣接する芸能の落語・人情噺を取り込むことがよくあるので、必要と判断したこれらの登場人物も取り挙げた。さらに現在高座で通称される題も含めた。以上、あくまで目安と考えていただきたい。
- (2) 一人で複数の講談本に登場する人物は、出来るだけ挙げた。「市川団十郎」や「高尾」などは代数をふらない。したがって、一項目にしているが実は複数の人物が混じっていることもある。
- (3) 例えば、お専は「越後伝吉」の登場人物なので、「お専→越後伝吉」とするが、越後伝吉自身も、勿論「越後伝吉→越後伝吉」なのだが、それは自明のこととし省き、「越後伝吉」は「大岡政談」物の一つなので「越後伝吉→大岡政談」とした。
- (4) 歴史上の人物には少ないが、町人等は速記本や演者によって登場人物の名前が変わることが多い。
- (5) ほとんど同じ筋書きを持つ講談本であっても登場人物の異同がある。特に主人公格ではない盗賊物、俠客物、剣豪物等の登場人物にそれが目立つ。

【ア】

[アイーアキ]

相川忠太夫 あいかわちゅうだゆう→番町皿屋敷
 会津正之 あいづまさゆき→出世葵
 藍屋源右衛門 あいやげんえもん→お富与三郎
 青江源三郎、源五郎 あおえげんざぶろう、げんごろう→油屋騒動

青砥藤綱 あおとふじつな→青砥政談
 青山主膳 あおやましゅぜん→番町皿屋敷
 赤井影韶 あかいかげあき→獄南自由党
 赤馬源左衛門 あかうまげんざえもん→お富与三郎
 赤尾林蔵 あかおのりんぞう→関東七人男
 赤垣源蔵 あかがきげんぞう→赤穂義士、徳利の別れ
 赤川又八 あかがわたはち→笹野名槍伝

暁星重三郎 あかばしじゅうざぶろう → 日本
左衛門

秋尾平八郎 あきおへいはちろう → 伊達騒動

秋田屋作兵衛 あきたやさくべえ → 野狐三
次

[アケーアタ]

明智左馬助光俊 あけちさまのすけみつとし
→ 湖水乗切り

明智光秀 あけちみつひで → 光秀旅日記

揚巻 あげまき → 花川戸助六

浅尾 あさお → 加賀騒動

浅香刑部 あさかぎょうぶ → 忍術の勇士

浅野内匠頭長矩 あさのたくみのかみながの
り → 赤穂義士

朝日奈弥太郎 あさひなやたろう → 壮士の
恋慕

浅山一伝吉 あさやまいちでんさい → 寛永御
前試合

浅山三五郎 あさやまさんごろう → 渋川伴五
郎

畔倉重四郎 あぜくらじゅうしろう → 大岡政
談

阿蘇次郎 あそじろう → 朝顔日記

安宅郷右衛門 あたかごうえもん → 加賀騒
動

安達元右衛門 あだちもとえもん → 天下茶
屋の仇討

安達弥助 あだちやすけ → 天下茶屋の仇討

[アナーアン]

穴沢主殿助 あなざわしゅでんのすけ → 寛永
御前試合

穴山岩千代 あなやまいわちよ → 真田十勇
士

穴山小平 (穴山次郎兵衛) あなやまこへい
(あなやまじろべえ) → 三方目出鯛

安濃徳次郎 あのとくじろう → 清水次郎長

阿部豊後守忠秋 あべぶんごのかみただあき
→ 隅田川出世の春駒

天野源右衛門 あまのげんえもん → 太閤記、
天正豪傑伝

天野屋利兵衛 あまのやりへえ → 赤穂義士

雨宮正作 あまみやしょうさく → 米櫃

網打七五郎 (小猿七之助) あみうちしちご
ろう (こざるしちのすけ) → 怪談天の網打

荒井崎岩蔵 あらいざきいわぞう → 小柳平助
伝

荒井の房吉 あらいのふさきち → 夜嵐お絹

荒井無宿の彦五郎 (小間物屋重兵衛) あ
らいむしゅくのひこごろう (こまものやじゅ
うべえ) → 姐妃のお百

荒馬吉五郎 あらうまきちごろう → 捨子の仇
討

荒馬の勘太 あらうまのかんた → 天保水滸
伝

荒木玄蕃 あらきげんば → 仙石騒動

荒木又右衛門 あらきまたえもん → 伊賀の
水月、寛永御前試合

荒獅子男之助 あらじしおとこのすけ → 伊達
騒動

嵐璃鶴 あらしりかく → 夜嵐お絹、紅緒の
草履

有馬頼高 (中務大輔) ありまよりたか (な
かつかさだいぶ) → 有馬の猫騒動

有村治左衛門 ありむらじざえもん → 桜田烈
士伝

淡路屋喜三郎 あわじやきさぶろう → 出世証
文

安国寺瓊瑤 あんこくじえけい → 太閤記

安珍清姫 あんちんきよひめ → 日高川実記

安藤帯刀 あんどうたてわき → 紀伊家の礎

安中草三郎 あんなかそうざぶろう → 榛名の
梅ヶ香

按摩の松の市 あんまのまつのいち → 玉川上
水の由来

[イ]

[イーイク]

飯岡助五郎 いいおかすけごろう→天保水滸伝
 井伊さだ いいさだ→寛永御前試合、伊達家の鬼夫婦
 飯泉霧太郎 いいずみきりたろう→緑林五漢録
 飯田覚兵衛 いいだかくべえ→天正三勇士
 飯田八郎 いいだはちろう→釈迦堂大仇討
 井伊直弼 いいなおすけ→桜田烈士伝
 井伊直人 いいなおと→寛永御前試合、伊達家の鬼夫婦
 飯沼勝五郎 いいぬまかつごろう→箱根靈験甍仇討
 庵崎の小平 いおさきのこへい→幡随院長兵衛
 猪飼五郎太夫 いかいごろだゆう→旗本五人男
 鑄掛屋松五郎 (鑄掛松) いかかけやまつごろう(いかけまつ)→文化噂白浪
 伊賀屋勘五郎 (夕立勘五郎) いがやかんごろう(ゆうだちかんごろう)→安政水滸伝
 鶴幸右衛門 いかるがこうえもん→天下茶屋の仇討
 幾久次 いくじ→博多小僧
 幾松 いくまつ→勤王芸者
 [イケイタ]
 池田忠雄 いけただだお→伊賀の水月
 池田治政 いけだはるまさ→岡山騒動
 生月鯨太左衛門 いけづきげいたぎえもん→土俵の仇討
 居酒屋新兵衛 いざかやしんべえ→天明白浪伝
 石川五右衛門 いしかわごえもん→太閤記、釜ヶ淵の由来、浜千鳥真砂の白浪
 石川寅次郎 いしかわとらじろう→加賀騒動
 石川紋也 いしかわもんや→元和三勇士
 石黒惣兵衛 いしぐろそうべえ→彦根三勇

士

石子伴作 いしこばんさく→大岡政談
 石田三成 いしだみつなり→佐和山騒動
 和泉屋次郎吉 (鼠の次郎吉) いずみやじろきち(ねずみのじろきち)→天保怪鼠伝、緑林五漢録、寛政五人小僧
 磯貝十郎左衛門 いそがいじゅうろうざえもん→赤穂義士
 磯五郎 いそごろう→野狐三次
 磯千鳥 いそちどり→櫓銀杏
 磯畑伴蔵 いそはたばんざう→寛永御前試合、柳生三代記
 颯の三次 いたちのさんじ→天明白浪伝
 板割の浅太郎 いたわりのあさたろう→国定忠治
 [イチーイナ]
 市川小団次 いちかわこだんじ→紅緒の草履
 市川団十郎 いちかわだんじゅうろう→百猫伝、亀甲縞
 市兵衛 いちべえ→煙草屋彦七
 一国 いっこく→越前騒動
 一心太助 いっしんたすけ→大久保政談
 井筒屋五郎兵衛 いづつやごろうべえ→佐倉義民伝
 一刀又六 いっとうまたろく→山本貞婦伝
 逸見多四郎 いつみたしろう→関東七人男
 井出市之助 いでいちのすけ→永井源三郎
 糸 いと→鈴木主水
 糸萩 いとはぎ→巷説長門鐔
 伊東一刀斎 いとういっとうさい→小野次郎右衛門、寛永御前試合
 伊藤喜兵衛 いとうきへえ→四谷怪談
 伊藤将監 (当麻三郎右衛門) いとうしょうげん(とうまさぶろうえもん)→天下茶屋の仇討
 伊東寺十太郎 いとうじじゅうたろう→立花家三勇士

伊東惣太 いたうそなた→佐賀の夜桜
伊東弥五郎 いたうやごろう→宮本武藏
稲垣 いながき→正直車夫
稲垣半兵衛 いながきはんべえ→加賀騒動
稲川政右衛門 いながわまさえもん→寛政力
士伝、関取千両幟
稲妻権次 いなずまごんじ→大岡政談
稲田重蔵 いなだじゅうぞう→桜田烈士伝
稲野屋半兵衛、半十郎 いなのやはんべえ、
はんじゅうろう→霞のお千代
稲葉小僧新助 (因果小僧) いなばこそうし
んすけ (いながこそう)→天明白浪伝
伊南数馬 いなみかずま→細川の血達磨
[イヌーイン]
犬上軍兵衛 いぬがみぐんべえ→有馬の猫
騒動、小野川真実録
井上徳三郎 いのうえとくさぶろう→返咲き
浪花梅
井上半次郎 いのうえはんじろう→出世の富
籤
稻生武太夫 いのうぶたゆう→寛永御前試
合
稻生平太郎 いのうへいたろう→伊予松山
狸騒動
伊庭如水軒 いばじょすいけん→寛永御前
試合
今牛若若太郎 いまうしわかわかたろう→天
明白浪伝
入墨おてづ いれずみおてづ→天明白浪伝
岩崎采女 いわさきうねめ→細川騒動
岩田長十郎 いわたちょうじゅうろう→延命
院
岩淵義政 いわぶちよしまさ→官員小僧
岩見重太郎 (薄田隼人兼相) いわみじゅう
たろう (すすきだはやかかねすけ)→天橋立
大仇討
因果小僧 (稲葉小僧新助) いながこそう
(いなばこそうしんすけ)→天明白浪伝

因果小僧六之助 いながこそうろくのすけ→
雲霧五人男

[ウ]

植木藤左衛門 うえきとうざえもん→宇都宮
釣天井
浮田伝五右衛門 うきたでんごえもん→熊本
騒動
宇喜多秀家 うきたひでいえ→八丈島の宇
喜多秀家物語
潮田又之丞、主水 うしおだまたのじょう、
もんど→赤穂義士
牛若小僧伝次 うしわかこそうでんじ→黒手
組助六
牛若三郎義虎 うしわかさぶろうよしとら→
神稻水滸伝
白井六郎 うすいろくろう→明治の仇討
鶉権兵衛 うずらのごんべえ→熊野権現
宇都宮重兵衛 うつのみやじゅうべえ→赤穂
義士
自惚医者 うぬぼれいしゃ→朝顔日記
采女 うねめ→柳沢騒動
宇野三平 うのさんべい→山本貞婦伝
梅ヶ谷藤太郎 うめがやとうたろう→幸助餅
梅吉 うめきち→甲斐勇吉
梅津喜満多 うめづきまた→巷説長門鏝
梅津長門 うめづながと→島衛冲津白浪
梅若礼三郎 うめわかれいざぶろう→天明白
浪伝
浦里太夫 うらさとだゆう→明烏
雲居禪師 うんごぜんじ→血染の木履

[エ]

栄三郎 えいざぶろう→鈴川源十郎
江島、生島新五郎 えじま、いくしましんご
ろう→配所の花
越後伝吉 えちごでんきち→大岡政談
江藤新平 えとうしんべい→明治叛臣伝

江戸節お紺 えどぶしおこん→吉原百人斬
榎本武揚 えのもとたけあき→恩愛親子餅
延命院日当 えんめいいんにっとう→因果小
町

【オ】

(ひらがな「お」から始まる名を
優先し、次に漢字の名前を排列)

[[お]]

お秋 おあき→秋色桜
お磯 おいそ→小金井小次郎
お稲 おいね→宇都宮釣天井
おいね与三郎 おいねよさぶろう→宇都宮
釣天井
お岩 おいわ→四谷怪談
お梅 おうめ→越後伝吉
お梅 おうめ→笹野名檜伝
お梅 おうめ→煙草屋喜八
おかめ→鬼神お松
お軽 おかる→赤穂義士
お軽平次 おかるへいじ→天保六花撰
お菊 おきく→番町皿屋敷
お熊 おくま→白子屋お熊
おこよ (鳥追い)→おこよ源三郎、旗本
五人男
おこん→油屋騒動
お紺 おこん→吉原百人斬
おさだ→伊達家の鬼夫婦
お里 おさと→江島屋騒動
お里, 沢市 おさと, さわいち→壺坂靈驗
記
おさめ→柳沢騒動
おさらば小僧伝次 おさらばこそうでんじ→
雲霧五人男
おさる→伊予松山騒動
お猿子嘉吉 おさるこかきち→安政三組盃
お島 おしま→出世の高松
お関 おせき→有馬の猫騒動

お専 おせん→越後伝吉
おそで→片山騒動
お袖 おそで→夕立勘五郎
お染 おそめ→安政三組盃
お高 おたか→柳沢騒動
お竹 おたけ→お竹如來
お旦那半次 おだんなはんじ→祐天吉松
おちか→小幡小平次
お蝶 おちょう→清水次郎長
お蝶 おちょう→夕立勘五郎
おつじ→岩見重太郎
お常 おつね→白子屋お熊
お常 おつね→野狐三次
おとき直七 おときなおしち→相縁奇縁
お富 おとみ→お富与三郎
お豊 (玉菊) おとよ(たまぎく)→五福屋政
談
お虎 おとら→島衝沖津白浪
お波 おなみ→巷説長門鐸
おぬい→祐天吉松
お花 おはな→塩原多助
お花 おはな→鈴川源十郎
お花 おはな→八百蔵吉五郎
お花 おはな→四谷怪談
お花友次郎 おはなともじろう→大岡政談
お早 おはや→越後伝吉
お早 おはや→永井源三郎
お秀 おひで→真柄のお秀
お秀の方 (秀之助) おひでのかた(ひでのす
け)→黒田騒動
お町 おまち→因果小町
お松 おまつ→江島屋騒動
お松 (松吉) おまつ(まつきち)→鬼神の
お松 (骸骨お松)
お光 おみつ→四谷怪談
お八重 おやえ→小夜衣草紙
お八重 おやえ→緑林五漢紙
おりん→押上鶴の当矢

[オイ—オキ]

追分三五郎 おいわけさんごろう→清水次郎
長

近江屋の勘次 おうみやのかんじ→藪原検
校

大石内蔵助 おおいしらのすけ→赤穂義士

大石瀬左衛門 おおいしせざえもん→赤穂義
士

大石主税 おおいしちから→赤穂義士

大岩岩五郎 おおいわいわごろう→小田原仇
討相撲

大川友右衛門 おおかわともえもん→細川血
達磨

大川八右衛門 おおかわはちえもん→岩見重
太郎

大河原源三郎 おおかわらげんざぶろう→夕
立勘五郎

大久保玄蕃 おおくぼげんば→麴町三軒家
の由来

大久保利通 おおくぼとしみち→島田一郎

大久保彦左衛門 おおくぼひござえもん→川
勝政談, 寛永御前試合

大熊団平 おおくだんべい→肥後の駒下
駄

大藏院宮内 おおくらいんくない→寛永御前
試合

大倉喜八郎 おおくらきはちろう→商傑喜八
郎

大河内膳兵衛 おおこうちぜんべえ→旗本五
人男

大阪の喜八 おおさかのきはち→文化噂白
浪

大崎玄蕃 おおさきげんば→寛永御前試合

大沢主水 おおさわもんど→太閤記

大塩平八郎 おおしおへいはちろう→瓢箪屋
政談

大瀬半五郎 おおせはんごろう→清水次郎
長

大高源吾 (子葉) おおたかげんご (しょう)
→赤穂義士, 雪の両国橋

大谷古猪之助 おおたにふるいのすけ→尼子
十勇士

太田の吞龍様 おおたのどんりゅうさま→吞
龍上人

太田六助 おおたろくすけ→敵討恨住吉

大槻蔵之助 (伝蔵) おおつきくらのすけ
(でんぞう)→加賀騒動

大綱加賀次 おおつなかがじ→野狐三次

大野道犬, 修理 おおのどうけん, しゅり→
木村長門守

大野治長 おおのはるなが→天下茶屋

大橋茂右衛門 おおはししげえもん→寛永御
前試合

大前田英五郎 おおまえだえいごろう→上州
土産

大政 おおまさ→清水次郎長

大村栄之丞 (栄三郎) おおむらえいのじょ
う (えいざぶろう)→吉原百人斬

大和田五郎 おおわだごろう→天正三勇士

小笠原佐渡守 おがさわらさどのかみ→東海
白浪

岡島老岐 おかじまいき→越後騒動

岡島八十右衛門 おかじまやそえもん→赤穂
義士

岡野金右衛門 おかのきんえもん→赤穂義
士, 恋の絵図面

岡部美濃守 おかべみののかみ→赤穂義士

小川勝五郎 おがわかつごろう→清水次郎
長

小川多吉郎 おがわたきちろう→ピストル
強盗

荻田主馬 おぎたしゅめ→越後騒動

荻生徂徠 おぎゅうそらい→徂徠豆腐, 柳
沢騒動

[オク—オン]

奥平久兵衛 おくだいらきゅうべえ→伊予松

山狸騒動

奥平源八郎 おくだいらげんばちろう→浄瑠璃坂の仇討

奥田孫太夫 おくだまごだゆう→赤穂義士

奥村八郎右衛門 おくむらはちろうえもん→慶安太平記

小栗美作 おぐりみまさか→越前騒動, 越後騒動

尾崎高右衛門 おざきとみえもん→松山騒動

織田大炊信勝 おだおおいのぶかつ→加賀騒動

落合久五郎 おちあいきゅうごろう→関東七人男

音羽丹七 おとわたんしち→大岡政談

鬼薊梅吉 (鬼坊主清吉) おにあざみうめきち (おにぼうずせいきち)→文化噂白浪

鬼小島弥太郎 おにこじまやたろう→塚原ト伝

鬼塚軍之助 おにつかぐんのすけ→寛永三勇士

鬼のお芳 おにのおよし→天明白浪伝

鬼坊主清吉 (鬼薊梅吉) おにぼうずせいきち (おにあざみうめきち)→文化噂白浪

鬼若金五郎 おにわかきんごろう→文化噂白浪

尾上菊五郎 おのえきくごろう→野狐三次, 因果小町

小野川喜三郎 おのがわきさぶろう→寛政力士伝, 有馬の猫騒動, 小野川真実録

小野次郎右衛門 (神子上典膳) おのじろうえもん(みこがみてんぜん)→一刀流瓶割典膳, 明石志賀之助, 関口弥太郎

小野善鬼 おのぜんき→小野次郎右衛門

小野寺十内 おのでらじゅうない→赤穂義士

花屋美の吉 おばなやみのきち→恋闇恨深川, 美の吉殺し

小満源五兵衛 おまんげんごべえ→浪花五

人斬

小山田庄左衛門 おやまだしょうざえもん→赤穂義士

女勘助 おんなかんすけ→天明白浪伝

女天一坊 おんなてんいちぼう→明治女天一坊

[カ]

[カイーカタ]

貝賀弥左衛門 かがやざえもん→赤穂義士

骸骨お松 (鬼神のお松) がいこつおまつ (きしんのおまつ)→笠松峠

甲斐の祐天 かいのゆうてん→千住の仇討

加賀爪甲斐守 かがつめかいのかみ→寛永御前試合

鏡岩浜之助 かがみいわはまのすけ→土俵の仇討

鏡師伊之助 かがみしいのすけ→文化噂白浪

嘉川主税之助 かがわちからのすけ→大岡政談

覚禅坊胤栄 かくぜんぼううんえい→寛永御前試合

寛十蔵 かけいじゅうぞう→真田十勇士

笠井松太郎 かさいまつたろう→笠井武勇伝

累 かさね→雨夜星累物語

梶川与惣兵衛 かじかわよそべえ→赤穂義士

梶田外記 かじたげき→文化噂白浪

春日時次郎 かすがときじろう→明烏十勇士

片岡源五右衛門 かたおかげんごえもん→赤穂義士

片岡直次郎 (片岡直侍) かたおかなおじろう(かたおかなおぎむらい)→天保六花撰

片倉小十郎 かたくらこじゅうろう→伊達騒

動

片山左京 かたやまさきょう→片山騒動
 [カツーカン]
 勝十郎 かつじゅうろう→勘当の名笛
 勝田新左衛門 かつたしんざえもん→赤穂義士
 河童又助 かつばまたすけ→加賀騒動
 桂川力蔵 かつらがわりきぞう→成田利生記、土俵の仇討
 桂小五郎 かつらごころう→勤王芸者
 加藤孫六 かとうまごころく→出世馬喰
 金井半兵衛 かないはんべえ→慶安太平記、寛永御前試合
 金子市之丞 かねこいちのじょう→天保六花撰
 釜吉 かまきち→天下の糸平
 鎌倉屋勘七 かまくらやかんしち→夜嵐お絹
 上台昌次郎 かみだいしょうじろう→越後伝吉
 上台憑次 かみだいひょうじ→越後伝吉
 神谷転 かみやうた→仙石騒動
 髪結金五郎 かみゆいきんごろう→文化噂白浪
 髪結新三 かみゆいしんざ→白子屋お熊
 亀井能登守 かめいのとのかみ→赤穂義士
 亀田大隅 かめだおおすみ→天正三勇士
 亀千代 かめちよ→伊達騒動
 蒲生氏郷 がもううじさと→名月若松城
 萱野三平 かやのさんべい→赤穂義士
 河合又五郎 かわいまたごころう→伊賀の水月
 川勝丹波守 かわかつたんばのかみ→大久保政談
 川越の善太 かわごえのぜんた→鬼神のお松
 川西勇之助 かわにしゆうのすけ→針ヶ谷の仇討
 河村兄弟 かわむらきょうだい→宇都宮の仇

討

神崎与五郎 かんざきよごろう→赤穂義士
 勘助、勘次郎 かんすけ、かんじろう→国定忠治
 観世太夫 かんぜだゆう→肉付きの面
 勘太 かんた→小間物屋彦兵衛
 神田の松 かんだのまつ→木食上人
 関東小六 かんとうごころく→水天宮利生記
 門梶之助 かんぬきかじのすけ→巷談業平塚
 観音久治 かのんきゅうじ→お富与三郎
 神戸信孝 かんべのふたか→太閤記

[キ]

[キカーキン]
 木内宗五郎 (佐倉宗五郎) きうちそうごろう (さくらそうごろう)→佐倉義民伝 (宝晋斎宝井) 其角 (ほうしんさいたからい) きかく→雪の両国橋
 喜三郎 きさぶろう→島衛沖津白浪
 鬼神のお松 (骸骨お松) きしんのおまつ (かいこつおまつ)→笠松峠
 貴田孫兵衛 (毛谷村六助) きだまごべえ (けやむらろくすけ)→天正豪傑伝、彦山権現誓助太刀
 木津勘助 きづかんすけ→浪花三侠客、勘助島の由来
 狐小僧 きつねごぞう→長野奇談
 木鼠吉五郎 (小雀吉五郎) きねずみきちごろう (こすずめきちごろう)→雲霧五人男、柴又利生記
 紀伊国屋文左衛門 きのくにやぶんざえもん→紀文大尽、室の入船
 木下藤吉郎 きのしたとうきちろう→太閤記
 奇妙院常五郎 きみょういんつねごろう→清水次郎長
 木村岡右衛門 きむらおかえもん→赤穂義士
 木村軍助 きむらぐんすけ→鼠小僧次郎吉

木村長門守重成 きむらながとのかみしげなり
→難波戦記, 木村の堪忍袋, 長門守
木村重成, 天下茶屋の仇討

木村常陸介 きむらひたちのすけ→石川五右衛門

木村又蔵 きむらまたぞう→天正豪傑伝,
姉川軍記

京極内匠 (微塵弾正) きょうごくたくみ(み
じんだんじょう)→毛谷村六助

刑部狸 きょうぶたぬき→伊予松山狸騒動

吉良上野介 きらこうずけのすけ→赤穂義士

吉良の仁吉 きらのにきち→清水次郎長

切られ与三 きられよさ→お富与三郎

霧隠才蔵 きりがくれさいぞう→真田十勇士

金看板甚九郎 きんかんばんじんくろう→め
組の喧嘩

[ク]

楠正成 くすのきまさしげ→菊水の旗風

国定忠治 くにさだちゅうじ→嘉永水滸伝

国次惣左衛門 くにつぐそうざえもん→三家
三勇士

熊沢蕃山 くまざわばんざん→朝顔日記,
岡山文庫

熊次郎 くまじろう→美の吉殺し

糸平内 くめのへいない→寛永御前試合

雲井龍雄 くもいたつお→徳川回復噂龍浪

雲霧仁左衛門 くもきりにざえもん→雲霧五
人男

倉吉 くらきち→押上鶴の当矢

倉橋重太夫 くらはしじゅうだゆう→黒田騒
動

倉橋伝助 くらはしてんすけ→赤穂義士

暗闇の丑松 くらやみのうしまつ→天保六花
撰

栗原遠江 くりはらとおとうみ→左甚五郎

栗山大膳 くりやまだいぜん→黒田騒動

黒井繁乃 くろいしげの→情けの仮字書き

黒鉄頭孫左衛門 くろかねあたまのまござえ
もん→水戸黄門

黒川主水 くろかわもんど→幡随院長兵衛

黒雲お辰 くろくもおたつ→大岡政談

黒駒の勝蔵 くろこまのかつぞう→甲斐の祐
天

黒田清隆 くろだきよたか→正直車夫

黒田水精 くろだすいせい→鬼坊主

黒田忠之 くろだただゆき→黒田騒動

桑名屋徳兵衛 くわなやとくべえ→姉妃の
お百

[ケ]

桂昌院 けいしょういん→柳沢騒動

袈裟御前 けさごぜん→文童上人

月照 げっしょう→西郷南州

毛谷村六助 (貴田孫兵衛) けやむらろくす
け(きだまごべえ)→彦山権現誓助太刀,

天正豪傑伝

毛谷主水 けやもんど→黒田騒動

源五郎, 源之助 げんごろう, げんのすけ→
肉付の面

源次郎 げんじろう→小夜衣草紙

源太郎 げんたろう→江島屋騒動

[コ]

鯉淵要人 こいぶちかなめ→桜田烈士伝

上泉伊勢守 こういずみいせのかみ→柳生三
代記

幸吉 こうきち→寛政力士伝

孝行市助 こうこういちすけ→寛永三馬術

孝行鉄 こうこうてつ→加賀騒動

高坂甚内 こうさかじんない→三甚内, 番
町皿屋敷, 甚内稻荷

高坂の藤右衛門 (溝呂木村の新太郎) こ
うさかのとうえもん(みぞろぎむらのしんた
ろう)→関東七人男

孝子九助 こうしくすけ→大岡政談

高嵩谷 こうすうこく→嵩谷の鍾馗
河内山宗俊 こうちやまそうしゅん→天保六
花撰
河野瀬兵衛 こうのせべえ→仙石騒動
蝙蝠幸八 こうもりこうはち→寛政五人小
僧
蝙蝠安 こうもりやす→お富与三郎
向陽上人 こうようしょうにん→黒田騒動
小金井小次郎 こがねいこじろう→慶応水
滸伝
獄門小僧初之助 ごくもんこそうはつのすけ
→緑林五漢録
小猿七之助(網打七五郎) こざるしちのす
け(あみうちしちごろう)→怪談天の網打
護持院隆光 ごじいんりゅうこう→柳沢騒動
越の海勇蔵 こしのうみゆうぞう→寛政力士
伝
御宗殿お滝 ごしゅでんおたき→小猿七之
助
御所の五郎蔵 ごしょのごろぞう→時鳥実
記
吾助 ごすけ→お花友次郎
小雀吉五郎(木鼠吉五郎) こすずめきちご
ろう(きねずみきちごろう)→雲霧五人男
五寸釘の虎吉 ごすんくぎのとらきち→ある
日の五寸釘虎吉
小天狗海伝 こてんぐかいでん→天明白浪
伝
小天狗霧太郎 こてんぐきりたろう→寛政五
人小僧
後藤小源太 ごとうこげんた→伊予松山狸
騒動
後藤半四郎 ごとうはんしろう→大岡政談
後藤又兵衛 ごとうまたべえ→岩見重太郎
琴浦 ことうら→因果小僧六之助
五斗米市 ごとべいいち→天保六花撰
此村大吉 このむらだいきち→旗本五人男
小幡小平次 こはだこへいじ→怪談浅香沼

小林金平 こばやしきんべい→夜嵐お絹
小林正吉 こばやししょうきち→正直車夫
小林平八郎 こばやしへいはちろう→赤穂義
士
小春治兵衛 こはるじへえ→網島情死
小はん こはん→天保六花撰
五分玉お藤 ごふだまおふじ→ピストル強
盗
小平 こへい→塩原多助
小堀和泉守直政 こぼりいずみのかみなおま
さ→文殊九助
小堀源十郎 こぼりげんじゅうろう→小堀政
談
小政 こまさ→清水次郎長
小町のおまん こまちのおまん→国定忠治
小町の金太 こまちのきんた→天保六花撰
小町の松五郎 こまちのまつごろう→木食上
人
小松村七五郎 こまつむらしちごろう→清水
次郎長
小間物屋重兵衛(荒井無宿彦五郎) こま
ものやじゅうべえ(あらいむしゅくのひこご
ろう)→娼妃のお百
小間物屋彦兵衛 こまものやひこべえ→大岡
政談
虚無僧義道 こむそうぎどう→大岡政談
小紫 こむらさき→白井権八
小森半左衛門 こもりはんざえもん→佐賀の
夜桜
五郎正宗 ごろうまさむね→正宗孝子伝
こんこん清次 こんこんせいじ→野狐三次
権三、助十、ごんざ、すけじゅう→小間物屋
彦兵衛
権次郎 ごんじろう→小幡小平次
権太 ごんた→煙草屋喜八

[サ]

西行 さいぎょう→鼓ヶ滝

西郷隆盛（南州） さいごうたかもり（なんしゅう）→明治叛臣伝、快男子

齋藤内蔵助 さいとうくらのすけ→太閤記

齋藤外記 さいとうげき→梁川庄八

齋藤弥九郎 さいとうやくろう→千葉周作

最明寺時頼 さいみょうじときより→忠孝常世物語

相模屋政五郎 さがみやまさごろう→江戸の相攻

坂本慶次郎 さかもとけいじろう→稲妻強盜作之助 さくのすけ→五福屋政談

桜井兄弟 さくらいきょうだい→伊賀の水月

桜井伍助 さくらいごすけ→関東七人男

桜川五郎蔵 さくらがわごろう→幡随院長兵衛

佐倉宗五郎（木内宗五郎） さくらそうごろう（きうちそうごろう）→佐倉義民伝

座光寺源三郎 ざこうじげんざぶろう→旗本五人男

笹川繁蔵 ささがわのしげぞう→天保水滸伝

佐々木岸柳 ささきがなりゅう→宮本武蔵

佐々木源之助 ささきげんのすけ→鶯塚の仇討

笹野権三郎 ささのごんざぶろう→笹野名槍伝、寛永御前試合

狹島地獄 ぎじまじごく→天明白浪伝

佐竹弾正 さたけだんじょう→塚原卜伝

貞宗 さだむね→五郎正宗

佐藤元右衛門 さとうもとえもん→天下茶屋仇討

佐渡屋惣兵衛 さどやそうべえ→面割狂言

真田昌幸 さなだまさゆき→真田三代記

真田幸隆 さなだゆきたか→真田三代記

真田幸村 さなだゆきむら→難波戦記、真田三代記、諸国漫遊記

佐野鹿十郎 さのしかじゅうろう→福井の仇討

佐野次郎吉（佐野次郎兵衛） さのじろきち

（さのじろべえ）→吉原百人斬、江戸節お紺

佐野次郎左衛門 さのじろうざえもん→吉原百人斬

佐野源左衛門常世 さののげんざえもんつねよ→忠孝常世物語

佐野善左衛門 さののぜんざえもん→田沼騒動

佐野山権平 さのやまごんべい→寛政力士伝

佐分利佐内 さぶりさない→笹野名槍伝

小夜衣、千太郎 さよぎぬ、せんたろう→村井長庵

更科 さらしな→尼子十勇士

猿飛佐助 さるとびさすけ→真田十勇士

沢の井 さわのい→天一坊

佐和八郎 さわだいはちろう→三家三勇士

佐原の喜三郎 さわらのきさぶろう→大阪屋花鳥

三次 さんじ→村井長庵

[シ]

志賀団七 しがだんしち→宮城野信夫

地獄太夫 じごくだゆう→一休

治三郎 じさぶろう→銘刀捨丸

宍戸右源太 ししどうげんた→寛永三馬術

宍戸六郎 ししどろくろう→天正三勇士

七之助 しちのすけ→藪原檢校

渋川伴五郎 しぶかわばんごろう→青山六道辻の仇討、寛永御前試合、仙石騒動

渋川幡龍軒 しぶかわばんりゅうけん→渋川伴五郎

治平 じへい→小夜衣草紙

島田一郎 しまだいちろう→大久保利通

島田源次郎 しまだげんじろう→兎雷也

島田重三郎（土手の道哲） しまだじゅうざぶろう（どてのどうてつ）→高尾太夫

島の伊三郎 しまのいさぶろう→国定忠治
清水一角 しみずいっかく→赤穂義士
清水定吉 しみずさだきち→ピストル強盗
清水の頑鉄 しみずのがんてつ→国定忠治
清水次郎長 しみずのじろちょう→明治水滸
伝
清水宗治 しみずむねはる→天晴れ名将
下斗米秀之進 しもとまいひでのしん→松山
騒動
車力の善八 しゃりきのぜんぱち→白子屋お
熊
十兵衛 じゅうべえ→村井長庵
松鶴 しょうかく→押上鶴の当矢
鍾馗の某 しょうきのなながし→関東七人男
庄司甚内 しょうじじんない→三甚内
正直清兵衛 しょうじきせいべえ→大岡政談
松雪庵元起 しょうせつあんげんき→水戸黄
門
庄太郎, 安次郎 しょうたろう, やすじろう
→清水次郎長
城富 じょうとみ→畔倉重四郎
白糸 しろいと→赤坂両父の仇討
白菊 しろぎく→遠山政談
白菊金五郎 しろぎくきんごろう→柳沢騒動
白雲平太夫 しろくもへいだゆう→明石志賀
之助
白子屋お熊 しろこやおくま→大岡政談
新蔵兄弟 しんぞうきょうだい→東台俠客伝
新蔵初五郎 しんぞうはつごろう→東台俠客
伝
神道徳次郎 (花沢一馬) しんとうとくじろ
う (はなざわかずま)→天明白浪伝
進藤房吉 しんどうふさきち→巷説長門鐔
甚之助 じんのすけ→美の吉殺し
甚兵衛 じんべえ→佐倉義民伝
新門辰五郎 しんもんたつごろう→慶応水滸
伝
真力庄吉 しんりきしょうきち→小金ヶ原大

仇討

[ス]

陶大之之進, 大次郎 すえだいのしん, だい
じろう→三家三勇士
菅原道真 すがわらみちざね→菅公, 菅原
天神記
菅谷半之丞 すがやはんのじょう→赤穂義士
杉田大蔵 すぎたおおくら→安政三組盃
杉立治兵衛 すぎたじへえ→亀甲編
杉の市 すぎのいち→藪原検校
杉野十平次 すぎのじゅへいじ→赤穂義士,
夜鷹蕎麦売り
杉本佐兵衛 すぎもとさへえ→楠の泣男
杉本平九郎 すぎもとへいくろう→福島騒動
杉山和一 すぎやまわいち→苦心の管鍼
助さん, 格さん すけさん, かくさん→水戸
黄門
助六揚巻 すけろくあげまき→比翼塚の由
来
鈴川源十郎 ずすかわげんじゅうろう→大岡
政談
鈴木久三郎 ずすききゅうざぶろう→鯉の御
意見
鈴木重幸 ずすきしげゆき→石山軍記
鈴木新之助 ずすきしんのすけ→片山騒動
薄田隼人兼相 (岩見重太郎) すすきだはや
とかねすけ (いわみじゅうたろう)→難波戦
記, 石川五右衛門
鈴木忠吉 ずすきちゅうきち→ボロ忠売出
し
鈴木藤吉郎 ずすきとうきちろう→安政三組
盃
鈴木主水 ずすきもんど→赤坂両父の仇討,
天和孝子伝
捨丸 すてまる→銘刀捨丸
洲走りの熊五郎 すばしりのくまごろう→雲
霧五人男

住谷七之丞、忠三郎 すみやしちのじょう、
ちゅうざぶろう→松島の仇討
駿河大納言忠長 するがだいなごんただなが
→宇都宮釣天井

[セ]

盛糸 せいし→新比翼塚
勢力富五郎 せいりきのとみごろう→天保水
滸伝
青龍刀権次 せいりゅうとうごんじ→明治女
天一坊
瀬川 せがわ→傾城瀬川
関口八郎 せきぐちはちろう→笹野名槍伝
関口文七 せきぐちぶんしち→新編伊香保
土産
関口弥太郎 せきぐちやたろう→寛永御前
試合、浮島ヶ原の仇討
関津富 せきしんぶ→俳人の雨乞い
関鉄之助 せきてつのすけ→桜田烈士伝
関良助 せきりょうすけ→松山騒動
雪駄直し長五郎 せったなおしのちょうごろ
う→旗本五人男
仙石主計 せんごくかずえ→仙石騒動
仙石権兵衛 せんごくごんべえ→石川五右
衛門
仙石左京 せんごくさきょう→仙石騒動
仙石道之助 せんごくみちのすけ→仙石騒動
千山 せんざん→緑林五漢録
善四郎 ぜんしろう→敷島物語
善次郎 ぜんじろう→煙草屋喜八
千田川留吉 せんだがわとめきち→関取千両
幟
千太郎 せんたろう→村井長庵
仙姫(天寿院) せんひめ(てんじゅいん)→
吉田御殿

[ソ]

相馬大作(下斗米秀之進) そうまだいさく

(しもとまいひでのしん)→松山騒動
蘇生の三蔵(五兵衛) そせいのさんぞう
(ごへえ)→(実事譚) 蘇生
曾呂利新左衛門 そろりしんざえもん→太閤
記、柿の御意見

[タ]

大工金五郎 だいくきんごろう→水戸黄門
大工政五郎 だいくまさごろう→左甚五郎、
天保水滸伝
大黒屋惣七 だいこくやそうしち→宮城野信
夫
大膳太夫 だいぜんたゆう→松山騒動
大天狗額太郎 だいてんぐがくたろう→国定
忠治
高尾 たかお→石井常右衛門
高尾 たかお→伊達騒動
高尾 たかお→紺屋高尾
高木一睡軒 たかぎいつすいけん→夕立働五
郎
高木牛之助 たかぎうしのすけ→森家三勇
士
高木折右衛門 たかぎおりえもん→高木武
勇伝
誰ヶ袖寅吉 たがそでおとときち→浪花三俠
客
高田軍兵衛 たかだぐんべえ→赤穂義士
高田大三郎(松本数馬) たかだだいざぶろ
う(まつもとかずま)→四谷怪談
高田又兵衛 たかだまたべえ→寛永御前試
合、笹野名槍伝
多賀潮湖(英一蝶) たがちょうこ(はなぶ
さいいちろう)→浅妻船
高野長英 たかのちょうえい→開化の魁、
実々伝
高萩伊之松 たかはぎのいのまつ→関東七人
男
多賀孫之丞 たがまごのじょう→二人合邦

滝の家お滝 たきのやおたき→小猿七之助
滝見山大八郎 たきみやまだいはちろう→成
田山利生記、土俵の仇討
滝本 たきもと→桜田烈士伝
沢庵 たくあん→伊賀の水月
田口勘十郎 たぐちかんじゅうろう→越前騷
動
竹内加賀之助 たけうちかがのすけ→寛永御
前試合、宮本武蔵
竹川森太郎 たけかわりんたろう→清水次郎
長
竹次郎 たけじろう→緑林五漢録
武林唯七 たけばやしただしち→赤穂義士
武村武兵衛 たけむらたけべえ→彦根三勇
士
多胡外記 たこげき→赤穂義士
多湖の伊兵衛 たこのいへえ→煙草屋喜八
田崎草雲 たざきそうん→名人草雲
立花 たちばな→赤穂義士
立花金五郎 たちばなさんごろう→祐天吉松
姐妃のお百 だっきのおひやく→佐竹騷動
伊達安芸 だてあき→伊達騷動
伊達綱宗 だてつなむね→伊達騷動、高尾
太夫
伊達綱村 だてつなむら→三方目出鯛
伊達兵部少輔宗勝 だてひょうぶしょうゆう
むねかつ→伊達騷動
伊達政宗 だてまさむね→雲居禪師、寛永
御前試合、梁川庄八、堪忍袋
田中定五郎 たなかさだごろう→丸亀仇討
田中平八 たなかへいはち→天下の糸平
棚橋久兵衛 たなはしきゅうべえ→彦根三勇
士
谷風梶之助 たにかぜかじのすけ→寛政力士
伝、情け相撲、七善根
谷次 たにじ→霞のお千代
谷重次郎 たにじゅうじろう→享保一人曾
我

谷豊栄 たにとよさか→新比翼塚
田沼意次、意知 たぬまおきつぐ、おきとも
→田沼騷動
種田五郎左衛門(種田一睡軒呑龍) たね
だごろうざえもん(たねだいつすいけんどん
りゅう)→笹野名槍伝
玉川兄弟(庄右衛門、清右衛門) たまが
わきょうだい(しょうえもん、せいえもん)
→玉川上水の由来
玉川主膳 たまがわしゅぜん→小幡小平次
玉菊(お豊) たまぎく(おとよ)→五福屋
政談
玉照 たまてる→煙草屋喜八
玉藻の前 たまものまえ→三国妖狐伝
民谷伊右衛門 たみやいえもん→四谷怪談
田宮左金吾 たみやさきんご→元和三勇士
田宮坊太郎 たみやぼうたろう→金比羅利
生記
為朝小僧 ためともごぞう→伊豆の白浪
俵屋玄蕃 たわらぼしげんば→赤穂義士
丹次、丹三郎 たんじ、たんざぶろう→塩原
多助
丹七 たんしち→音羽丹七
丹波屋丹右衛門 たんばやたんえもん→音羽
丹七

[チ]

近松勘六 ちかまつかんろく→赤穂義士
縮屋新助 ちぢみやしんすけ→美の吉殺し
千束 ちづか→勤王芸者
智徳院 ちとくいん→木村長門守
千馬三郎兵衛 ちばさぶろうびょうえ→赤穂
義士、千馬の槍
千葉周作 ちばしゅうさく→巷説長門鐔
忠僕常平 ちゅうぼくつねへえ→幡隨院長兵
衛
忠僕直助(津田越前守助直) ちゅうぼくな
おすけ(つだえちぜんのかみすけなお)→赤

穂義士

忠僕元助 ちゅうぼくもとすけ→赤穂義士
千代 ちよ→山内一豊の妻
長吉 ちようきち→小間物屋彦兵衛
銚子の五郎藏 ちようしのごろぞう→天保水
滯伝
鎮西八郎為朝 ちんぜいはちろうためとも→
為朝武勇伝

【ツ】

塚原ト伝 つかはらぼくでん→塚原二代記、
宮本武蔵、奥州松島仇討、真影流名人
津軽越中守 つがるえちゅうのかみ→松山
騷動
筑紫市兵衛 つくしいちべえ→寛永三馬術
筑波三平 つくばさんべい→鈴木主水
津田越前守助直 (忠僕直助) つだえちぜん
のかみすけなお (ちゅうぼくなおすけ)→赤
穂義士
筒井伊賀守 つついがのかみ→野狐三次、
鼠小僧次郎吉
筒井小源太 つついこげんた→蒲生三勇士
筒井順慶 つついじゅんけい→太閤記
筒井山城守 つついやましろのかみ→寛永御
前試合
都筑武助 つづきぶすけ→吉原百人斬
恒川半三郎 つねかわはんざぶろう→榛名の
梅ヶ香
津の国屋お染 つのくにやおそめ→安政三
組盃
鏝屋宗伴 つばやそうばん→赤穂義士
鶴吉 つるきち→清水次郎長

【テ】

貞女お仙 ていじょおせん→越後伝吉
鉄石丈右衛門 てっせきじょうえもん→関取
千両幟
鉄藏、紋次郎 てつぞう、もんじろう→水戸

の仇討

手振り坊主 てふりぼうず→小夜衣草紙
寺井玄漢 てらいげんけい→赤穂義士
寺坂吉右衛門 てらさかきちえもん→赤穂義
士
寺津間之助 てらつものすけ→清水次郎
長
寺西閑心 てらにしかんしん→寛永御前試
合
照姫 てるひめ→那須野の鬼姫
照屋忠右衛門 てるやちゅうえもん→横浜小
僧殺し
天一坊 てんいちぼう→徳川天一坊、大岡
政談
天海僧正 てんかいそうじょう→大久保政談
天狗小僧霧太郎 てんぐこぞうきりたろう→
緑林五漢録、鼠小僧次郎吉
伝吉 でんきち→鬼神のお松
天竺徳兵衛 てんじくとくべえ→児雷也
天寿院 (仙姫) てんじゅいん (せんひめ)→
吉田御殿

【ト】

唐犬権兵衛 とうけんごんべえ→幡随院長
兵衛
藤堂大学頭 とうどうだいがくのかみ→出世
の大盃
藤堂高俊 とうどうたかとし→亀甲編
藤堂高虎 とうどうたかたら→出世の白餅
藤堂帯刀 とうどうたてわき→藤堂評定録
藤堂仁右衛門 とうどうじんえもん→藤堂評
定録
当麻三郎右衛門 (伊藤将監) とうまさぶろ
うえもん (いとうしょうげん)→天下茶屋
の仇討
東龍和尚 とうりゅうおしょう→清水次郎長
遠山左衛門尉 とおやまさえもんのじょう→
いれずみ奉行、遠山政談、出世の遠山

常磐津文字花 ときわずもじはな → 鼠小僧
次郎吉
徳川家光 とくがわいえみつ → 宇都宮鈞天
井
徳川綱吉 とくがわつなよし → 柳沢騒動
徳川宗治 とくがわむねはる → 異風行列
徳川吉宗 とくがわよしむね → 天一坊
徳力屋万右衛門 とくりきやまんえもん → 五
貫裁き
土佐将監光信 とさしょうげんみつのぶ → 吃
の又平
土佐の又平 (土佐光興) とさのまたべえ
(とさみつおき) → 吃の又平
戸沢白雲斎 とざわはくうんさい → 猿飛佐助
戸田五郎 とだごろう → 大力戸田五郎
戸田新八郎 とだしんぱちろう → 元和三勇
士
土手の道哲 (島田重三郎) どてのどうてつ
(しまだじゅうざぶろう) → 高尾太夫
度々平 どどへい → 寛永三馬術
富右衛門 とみえもん → 畔倉重四郎
富沢基内 とみざわじんない → 三甚内
富蔵、藤十郎 とみぞう、とうじゅうろう →
千代田白浪
富田源之丞 とみたげんのじょう → 寛政三勇
士
富森助右衛門 とみのもりすけえもん → 赤穂
義士
戸谷新右衛門 とやしんえもん → 義民の末
路
虎吉 とらきち → 虎公物語
鳥追いおこよ とりおいおこよ → おこよ源
三郎、旗本五人男
鳥居強右衛門 とりいすねえもん → 長篠合
戦
鳥居理右衛門 とりいりえもん → 赤穂義士
呑龍上人 どんりゅうしょうにん → 国定忠治

[ナ]

内藤意観 ないとういかん → 軍神の旗
内藤八左衛門 ないとうはちざえもん → 二人
合邦
直侍 なおぎむらい → 天保六花撰
直七 なおしち → 夜鷹煙草
永井源三郎 ながいげんざぶろう → 永井義勇
伝
中江藤樹 なかえとうじゅ → 近江聖人
仲尾 なかお → 山本貞婦伝
中川忠太夫 ながかわちゅうだゆう → 姫妃の
お百
中川縫之助 ながかわぬいのすけ → 肥後の駒
下駄
長阪孫九郎 ながさかまごくろう → 親不知大
仇討
中務大輔 (有馬頼高) なかつかさだいぶ
(ありまよりたか) → 有馬の猫騒動
中村市右衛門 なかむらいちえもん → 寛永御
前試合
中村歌右衛門 なかむらうたえもん → 名医と
名優
中村勘助 なかむらかんすけ → 赤穂義士
中村仲蔵 なかむらなかぞう → 旗本五人男
半井源太郎 (半井法眼) なからいげんたろ
う (なからいほうげん) → 名医と名優
名古屋山三郎 なごやさんざぶろう → 森家三
勇士
夏目三四郎 なつめさんしろう → 鬼神のお
松
那須与一 なすのよいち → 扇の的
浪華のお登喜 なにわのおとき → 浪華女俠
伝
鍋島丹後守光茂 なべしまたんごのかみみつ
しげ → 佐賀の夜桜
なめくじのお綱 なめくじのおつな → 兎雷
也
成田の甚蔵 なりたのじんぞう → 天保水滸

伝

業平小僧金五郎 なりひらこぞうきんごろう
→緑林五漢録，寛政五人小僧
成瀬権三 なるせごんごう→岩見重太郎
成瀬新六郎 なるせしんろくろう→寛政三勇士
南郷力丸 なんごうりきまる→日本左衛門

【二】

西村権四郎 にしむらごんしろう→名月若松城
西村八重子 にしむらやえこ→東髪娘
日光の円蔵 にっこうのえんごう→国定忠治
日当 にととう→実録延命院，因果小町
日本銀治 にっぽんぎんじ→江戸の花血染纏
日本左衛門（浜島庄兵衛） にっぽんざえもん
（はまじましょうべえ）→東海白浪
蛭川新右衛門 にながわしんえもん→一休
仁礼半九郎 にははんくろう→快男子

【ヌ】

濡髪長五郎 ぬれがみちようごろう→浪花三俠客

【ネ】

根岸鎮衛 ねぎしやすもり→検校と町奉行
根津四郎右衛門 ねずしろうえもん→浪花三俠客
根津甚八 ねずじんぱち→真田十勇士
鼠小僧次郎吉（鼠の次郎吉，和泉屋次郎吉）
ねずみこぞうじろきち（ねずみのじろきち，
いずみやじろきち）→天保怪鼠伝，緑林五漢録，寛政五人小僧

【ノ】

野狐三次 のぎつねさんじ→観世音利生記
野ぶすま小僧幸次 のぶすまこぞうゆきじ→

緑林五漢録，寛政五人小僧
野村郷藏 のむらごうごう→小幡小平次

【ハ】

羽賀井一心斎 はがいいっしんさい→寛永御前試合
博多小僧（はぶ娘） はかたこぞう（はぶすめ）→浪枕巡島奇談
萩野彦兵衛 はぎのひこべえ→安政四天王
白隠 はくいん→濡衣禪師
爆烈お玉 ばくれつおたま→明治女天一坊
間十次郎 はざまじゅうじろう→赤穂義士
橋場の長吉 はしばのちようきち→寛政力士伝
長谷部雲鶴 はせべうんかく→吃の又平
長谷部国太郎 はせべくにたろう→富山騷動
長谷部雪子 はせべゆきこ→快男子
秦野太郎次郎，三郎 はたのたろじろう，さぶろう→金華山大仇討
蜂須賀小六 はちすかこころく→太閤記
羽鳥瀬左衛門 はとりせぎえもん→加賀騷動
花井お梅 はないおうめ→酔月情話
花沢一馬 はなざわかずま→神道徳次郎
英一蝶（多賀蝶湖） はなぶさいっちょう（たがちょうこ）→浅妻船
花屋金兵衛 はなやきんべえ→夕立勘五郎
放駒四郎兵衛 はなれごましろべえ→幡随院長兵衛
塙保己一 はなわはきいち→検校と町奉行
馬場三郎兵衛信兼 ばばさぶろうひょうえのふかね→馬場の太盃
浜島庄兵衛（日本左衛門） はまじましょうべえ（にっぽんざえもん）→東海白浪伝
早川丈五郎 はやかわじょうごろう→鬼神のお松
林重次郎，源次郎 はやしじゅうじろう，げ

んじろう→天下茶屋の仇討
早見藤左衛門 はやみとうぎえもん→赤穂義士
原惣右衛門 はらそうえもん→赤穂義士
原田甲斐 はらだかい→伊達騒動
幡隨院長兵衛 ばんずいいんちょうべえ→権八小紫
塙団右衛門 ばんだんえもん→難波戦記、
岩見重太郎、梁川庄八、天下茶屋の仇討
般若のお作 はんにゃのおさく→野晒勘三郎

[七]

疋田文五郎 ひきたぶんごろう→寛永御前試合
樋口十三郎 ひぐちじゅうざぶろう→寛永御前試合、奥州松島の仇討
樋口十蔵 ひぐちじゅうざう→塚原卜伝
彦坂伝八 ひこさかでんぱち→幡隨院長兵衛
久松桃太郎 ひさまつももたらう→加賀騒動
肥前の小猿 ひぜんのかざる→雲霧五人男
秀之助（お秀の方）ひでのすけ（おひでのかた）→黒田騒動
一突き半助 ひとつきはんすけ→柳生旅日記
火の玉小僧鬼慶助（新藏院妙善）ひのたまござうおにけいすけ（しんざういんみょうぜん）→関東七人男
火の玉三五郎 ひのたまさんごろう→畔倉重四郎
火柱夜叉 ひばしらやしゃ→天明白浪伝
平手造酒 ひらてみき→天保水滸伝
広瀬軍蔵 ひろせぐんざう→岩見重太郎
広瀬中佐 ひろせちゅうさ→軍神広瀬

[フ]

深見長兵衛 ふかみちようべえ→清水次郎長
福岡貢 ふくおかみつぐ→油屋騒動
福島中佐 ふくしまちゅうさ→亜細亜横断
福島正則 ふくしままさのり→福島騒動、元和三勇士
藤井紋太夫 ふじいもんだゆう→水戸黄門
藤掛道十郎 ふじかけどうじゅうろう→村井長庵
藤田伝三郎 ふじたでんざぶろう→萩の露山城日記、藤田全盛鑑
富士松重三郎 ふじまつじゅうざぶろう→敷島物語
藤屋の寛吉 ふじやのかんきち→関東七人男
布施糸 ふせいと→今常盤布施
布施大吉 ふせだいきち→美の吉殺し
筆野 ふでの→岡山騒動
船越重右衛門 ふなこしじゅうえもん→浪花百人斬り
振袖吉次 ふりそできち→明治女天一坊
不破数右衛門 ふわかずえもん→赤穂義士
不破伴左衛門 ふわばんざえもん→森家三勇士
分銅伊勢屋 ぶんどういせや→鼠小僧次郎吉

[ヘ]

日置民部 へきみんぶ→寛永御前試合
蛇の大蛇丸 へびのおろちまる→迅雷也
弁天小僧菊之助 べんてんござうきくのすけ→日本左衛門

[ホ]

法印大五郎 ほういんだいごろう→清水次郎長
宝生栄之丞（栄三郎）ほうしょうえいのじょう（えいざぶろう）→吉原百人斬

北条太郎 ほうじょうたろう→掛川大評定
宝普斎(宝井其角) ほうしんさい(たから
いきかく)→雪の両国橋
宝蔵院覚禅坊 ほうぞういんかくぜんぼう→
寛永御前試合
宝龍斎正宗 ほうりゅうさいまさむね→五郎
正宗, 孝子正宗
保下田久六 ぼげたのきゅうろく→清水次郎
長
星亨 ほしとおる→銀行頭取殺し
保科正之 ほしなまさゆき→五月織
星野荒太郎 ほしのあらたろう→佐賀の夜
桜
星野勘左衛門 ほしのかんざえもん→三家三
勇士
細井広沢 ほそいこうたく→柳沢騒動
法華長兵衛 ほっけちやうべえ→幡随院長
兵衛
堀田上野介 ほったこうずけのすけ→佐倉義
民伝
堀源太左衛門 ほりげんたざえもん→田宮坊
太郎
堀部安兵衛 ほりべやすべえ→赤穂義士,
高田馬場
堀部弥兵衛 ほりべやへえ→赤穂義士
堀主水 ほりもんど→若松騒動
本座村の為五郎 ほんざむらのためごろう→
清水次郎長
本多上野介 ほんだこうずけのすけ→宇都宮
釣天井
本多平八郎忠勝 ほんだへいはちろうただか
つ→太閤記

[マ]

前田吉徳 まえだよしのり→加賀騒動
前原伊助 まえはらいすけ→赤穂義士
前原一誠 まえばらいっせい→明治叛臣伝
曲垣平九郎(和田平) まがきへいくろう

(わだへい)→寛永三馬術, 出世の春駒,
寛永御前試合
真柄刑部 まがらぎょうぶ→真柄のお秀
曲淵甲斐守 まがりがふちかいのかみ→文化
嚙白浪
牧野備後守 まきのびんごのかみ→柳沢騒動
孫八 まごはち→誉れの孫八
政岡(三沢初子) まさおか(みさわはつこ)
→伊達騒動
(大工) 政五郎(だいく) まさごろう→左甚
五郎, 天保水滸伝
正近 まさちか→五郎正宗
(宝龍齋) 正宗(ほうりゅうさい) まさむね
→五郎正宗, 孝子正宗
ましらの伝次 ましらのでんじ→国定忠治
増川仙右衛門 ますかわのせんえもん→清水
次郎長
間瀬久太夫 ませきゅうだゆう→赤穂義士
間瀬孫九郎 ませまごくろう→赤穂義士
松井民次郎 まついみんじろう→松井両雄
伝
松吉 まつきち→鬼神お松
松吉 まつきち→関取千両織
松平安芸守 まつだいらあきのかみ→赤穂義
士
松平隠岐守 まつだいらおきのかみ→伊予松
山狸騒動
松平讃岐守頼重 まつだいらさぬきのかみよ
りしげ→出世の高松
松平忠直 まつだいらただなお→越前騒動
松平長七郎 まつだいらちやうしちろう→名
君道中記
松平出羽守 まつだいらでわのかみ→天保六
花撰, 夕立勘五郎
松平伝内 まつだいらでんない→明石の斬捨
松平若狭守忠明 まつだいらわかさのかみた
だあき→明石の斬捨
松野河内守 まつのかわちのかみ→浪花女侠

伝、赤穂義士

松前鉄之助 まつまえてつすけ→伊達騒動

松前屋五郎兵衛 まつまえやごろべえ→大久保政談

松本数馬(高田大三郎) まつもとかずま(たかだだいざぶろう)→四谷怪談

松本次郎 まつもとじろう→天正三勇士

松本の四郎太郎 まつもとのしろう→両面藤三郎

松山伊予守 まつやまいよのかみ→無筆の出世

松山秀之進 まつやまひでのしん→肥後の駒下駄

幻おかつ まぼろしおかつ→文化噂白浪

蝮のお政 まむしのおまさ→国定忠治

丸橋忠弥 まるばしちゅうや→慶安太平記、寛永御前試合

丸目藏人 まるめくらんど→寛永御前試合

丸屋の忠吉 まるやのちゅうきち→国定忠治

万次郎 まんじろう→五福屋政談

[ミ]

三浦左近 みうらさこん→勤王芸者

三浦屋孫次郎 みうらやまごじろう→天保水滸伝

三日月お辰 みかずきおたつ→遠山政談

三日月小僧 みかずきこぞう→島衛冲津白浪

三河屋喜造 みかわやきぞう→音羽丹七

三河屋房次郎 みかわやふさじろう→国定忠治

神子上典膳(小野次郎右衛門) みこがみてんぜん(おのじろうえもん)→一刀流瓶

割典膳, 明石志賀之助, 関口弥太郎

三島幸太郎 みしまこうたろう→恩義の柵

徹塵弾正(京極内匠) みじんだんじょう(きょうごくたくみ)→毛谷村六助

水野三郎兵衛 みずのさぶろべえ→岡山騒

動

水野十郎左衛門 みずのじゅうろうざえもん→幡随院長兵衛, 明石志賀之助

水呑村九助 みずのみむらのきゅうすけ→大岡政談

水野六郎次 みずのろくろうじ→伊賀の水月後日

水間大八郎兼時 みずまだいはちろうかねとき→小松三勇士

溝口大之進 みぞぐちだいのしん→天正三勇士

溝口半之丞(幽霊半之丞) みぞぐちはんのじょう(ゆうれいはんのじょう)→天正三勇士

溝呂木村の新一郎(高坂の藤右衛門) みぞろぎむらのしんたろう(こうさかのとうえもん)→関東七人男

三千歳 みちとせ→天保水滸伝

三ツ木の文蔵 みつぎのおんぞう→国定忠治

水戸黄門 みとこうもん→柳沢騒動

水戸中納言頼房 みとちゅうなごんよりふさ→出世の高松

水戸斉昭 みとなりあきら→桜田烈士伝(尾花屋) 美の吉(おばなや) みのきち→恋闇恨深川, 美の吉殺し

三村次郎右衛門 みむらじろうえもん→赤穂義士, 薪割り

宮内菜女 みやうちうねめ→寛政三勇士

宮城野信夫 みやぎのしのぶ→由井正雪

都鳥吉兵衛 みやこどりきちべえ→清水次郎長

宮本伊織 みやもといおり→寛永御前試合

宮本武蔵 みやもとむさし→寛永御前試合, 笹野名槍伝, 二刀の誉

深雪 みゆき→朝顔日記

妙海尼 みょうかいに→赤穂義士

三好伊三入道 みよしいさんのにゅうどう→

真田十勇士
三好清海入道 みよしせいかいにゆうどう →
真田十勇士
三好屋四郎兵衛 みよしやしろべえ → 浪華
女俠伝

【ム】

向井藏人（度々平） むかいくらんど（どど
へい）→寛永三馬術、笹野名槍伝
向井善九郎 むかいぜんくろう → 肥後の駒
下駄
向う見ずの三吉 むこうみずのさんきち → 雲
霧五人男
武藏屋周太郎 むさしやしゅうたろう → 清水
次郎長
武藏屋重兵衛 むさしやしゅうべえ → 血池地
獄
むささびのお久 むささびのおひさ → 殿様
勝治
むささびの三次 むささびのさんじ → 天明
白浪伝
陸奥宗光 むつむねみつ → 剃刀大臣
村井長庵 むらいちやうあん → 大岡政談
村上大助 むらかみだいすけ → 蒲生三勇士
村越茂助 むらこしもすけ → 誉れの使者、
左七之字の由来
紫紐丹左衛門 むらざきひもたんざえもん →
天明白浪伝
村正 むらまさ → 五郎正宗
村松喜兵衛 むらまつきへえ → 赤穂義士
村松三太夫 むらまつさんだゆう → 赤穂義士

【モ】

毛利玄達 もうりげんたつ → 寛永御前試合
毛利小平太 もうりこへいた → 赤穂義士
木食上人 もくじきしょうにん → 神田のお
松、慶安太平記
望月六郎 もちざきろくろう → 真田十勇士

百地三太夫 ももちさんだゆう → 石川五右
衛門

森田三郎 もりたさぶろう → 立花家三勇士
森田庄兵衛、勝十郎（咲次郎） もりたし
ょうべえ、かつじゅうろう（さきじろう）→
勘当の名笛

森太兵衛 もりたへえ → 天正三勇士、黒田
節

森田屋清蔵 もりたやせいざう → 天保六花
撰

森の石松 もりのいしまつ → 清水次郎長
もろこし → 天保六花撰

文殊久助 もんじゅうすけ → 伏見義民伝

【ヤ】

八重垣主水 やえがきもんど → 吉原百人斬

八百勝 やおかつ → 野狐三次

八百蔵吉五郎 やおぞうきちごろう → 天明白
浪伝

八百屋お七 ややおしち → 小堀政談

弥吉 やきち → 玉菊灯笼

柳生十兵衛三藏 やぎゅうじゅうべえみつよ
し → 荒木又右衛門、隠密道中記、伊達
家の鬼夫婦

柳生但馬守宗矩 やぎゅうたじまのかみむね
のり → 柳生三代記

柳生但馬守宗藏 やぎゅうたじまのかみむね
よし → 柳生三代記

柳生飛騨守宗冬 やぎゅうひだのかみむねふ
ゆ → 柳生三代記、寛永御前試合

矢切の庄太 やぎりのしょうた → 天保水滸
伝

八坂源次兵衛 やさかげんじべえ → 肥後の
駒下駄

安井綱五郎 やすいつなごろう → 蒲生三勇
士

安田作兵衛 やすださくべえ → 天正豪傑伝

矢田五郎右衛門 やだごろうえもん → 赤穂

義士

弥太五郎源七 やたごろうげんしち→白子屋
お熊
奴の小万 やつこのこまん→浪華女侠伝
八つ橋 やつはし→吉原百人斬
矢頭衛門七 やとうえもしち→赤穂義士
梁川庄八 やながわしょうはち→梁川義勇伝
柳沢吉保 やなぎさわよしやす→柳沢騒動
柳田角之進 やなぎだかくのしん→柳田の堪
忍袋
藪井玄意 やぶいげんい→奥羽漫遊記
藪原検校 やぶはらけんぎょう→大岡政談
山岡角兵衛の妻 やまおかかくべえのつま→
赤穂義士
山県刑部 やまがたぎょうぶ→関口弥太郎
山形の繁蔵 (溝口大之進) やまがたのしげ
ぞう(みぞぐちだいのしん)→巷説長門鐔
山ヶ谷源太郎 やまがやげんたろう→関東七
人男
山口屋善右衛門 やまぐちやぜんえもん→塩
原多助
山路将監 やまじしょうげん→太閤記
山田真龍軒 やまだしんりゅうけん→寛永御
前試合
山田初之助 やまだはつのすけ→寛政五人
小僧
山田光興 やまだみつおき→越後騒動
山中鹿之助 やまなかしかのすけ→尼子十勇
士
山中亮之助 やまなかりょうのすけ→捨身の
構
山猫の三次 やまねこのさんじ→雲霧五人
男
山内伊賀亮 やまのうちいがりょう→天一坊
山内一豊、その妻(千代) やまのうちかず
とよ、そのつま(ちよ)→出世の馬揃え
山本仙之助政勝 やまもとせんすけまさか
つ→甲斐の祐天

山本旗郎 やまもとはたろう→松島の仇討
槍持ち甚兵衛 やりもちじんべえ→榊原の
槍切り

山家清兵衛 やんべせいべえ→宇和島騒動

【ユ】

湯浅正宗 ゆあさまさむね→大岡政談
由井正雪 (由井民部之助) ゆいしょうせつ
(ゆいみんぶのすけ)→慶安太平記、寛永
御前試合、宮城野信夫
夕立勘五郎 (伊賀屋勘五郎) ゆうだちかん
ごろう (いがやかんごろう)→安政水滸伝
祐天上人 ゆうてんしょうにん→怪談累物
語、雨夜星累物語
祐天仙之助 ゆうてんせんのすけ→甲斐の祐
天
幽霊半之丞 (亀田大隅) ゆうれいはんのじ
ょう (かめだおおすみ)→天正三勇士
由利鎌之助 ゆりかまのすけ→真田十勇士

【ヨ】

瑤泉院 ようせいいん→赤穂義士
横井甚兵衛 よこいじんべえ→旗本五人男
横川勘平 よこかわかんぺい→赤穂義士
横沼の虎吉 よこぬまのとらきち→関東七人
男
横谷珉貞 よこやみてい→名匠の鴉
与三郎 よさぶろう→お富与三郎
与三郎 よさぶろう→宇都宮釣天井
吉岡浅之助 よしおかあさのすけ→小金ヶ原
の仇討
吉岡一味斎 よしおかいちみさい→毛谷村六
助
吉岡衆雄 よしおかくめお→恩義の柵
吉岡兼房 よしおかけんぼう→小刀(小太
刀)名人吉岡兼房、寛永御前試合
吉岡無二斎 よしおかむにさい→宮本武蔵

吉田忠左衛門 よしだちゅうざえもん→赤穂
義士

与七 よしち→五福屋政談

依田豊前守 よだぶぜんのかみ→お富与三
郎

淀屋辰五郎 よどやたつごろう→水戸黄門

万屋金兵衛 よろずやきんべえ→鬼坊主清
吉

[ラ]

雷電為右衛門 らいでんためえもん→寛政力
士伝, 小野川真実録

[リ]

龍藏寺五郎 りゅうぞうじごろう→寛永三勇
士

龍造寺又一郎 りゅうぞうまたいちろう→
佐賀の夜桜

両国樞之助 りょうごくかじのすけ→野狐三
次

[ロ]

良弁 ろうべん→良弁杉の由来

[ワ]

脇坂淡路守 わきさかあわじのかみ→延命院

和久半太夫 わくはんたゆう→赤穂義士

和佐大八郎 わさだいはちろう→寛永御前
試合

鷺尾小太郎 わしおこたろう→由比ヶ浜大
仇討

鷺津七兵衛 わしづしちべえ→寛永御前試
合

和田庄次郎 わだしょうじろう→三家三勇
士

渡辺峯山 わたなべかざん→開化の魁,
実々伝

渡辺数馬 わたなべかずま→伊賀の水月

渡辺治郎右衛門 わたなべじろうえもん→慶
安三勇士

渡辺清左衛門 わたなべせいざえもん→巷説
長門鐙

和田秀之進 わだひでのしん→雪見ヶ嶽大
仇討

和田平助 わだへいすけ→三家三勇士, 寛
永御前試合

和田平と度々平 わだへいとどどへい→寛永
三馬術

講談小題・異名索引

留意点

- (1) 異名は、例えば「荒木又右衛門→伊賀の水月」、「伊賀の水月→荒木又右衛門」のように出来るだけ相互参照ができるようした。
- (2) 小題は、例えば「秋葉の血煙り→清水次郎長(内)」のように(内)を振った。

【ア】

青葉山評定 あおばやまひょうじょう →伊達騒動
明石志賀之助 あかししがのすけ →山内鹿之助
秋田藩 (秋田騒動) あきたぶき (あきたそどう) →佐竹騒動
秋田屋乗取り あきたやのっとり →野狐三次(内)
秋葉の血煙り あきばのちけむり →清水次郎長(内)
悪事三十四ヶ条あくじさんじゅうしかじょう →伊達騒動(内)
明烏十勇士 あげがらすじゅうゆうし →最上大評定
赤穂義士伝 あこうぎしでん →四十七士伝
浅妻船 あさづまふね →柳沢騒動(内)
浅間噴火余聞 あさまふんかよぶん →五平菩薩
飛鳥山の子別れ あすかやまのこわかれ →祐天吉松(内)
東下り あずまくだり →赤穂義士(内)
畔倉重四郎 あぜくらじゅうしろう →大岡政談(内)
愛宕山乗切り あたごやまのりきり →寛永三馬術(内)
天晴れ忠臣 あっばれちゅうしん →隅田川乗切
姉川合戦 あねがわのかっせん →太閤記(内)
油屋騒動 あぶらやそどう →古市十人斬

あやめ人形 あやめにんぎょう →左甚五郎(内)
荒木又右衛門 あらきまたえもん →伊賀の水月
安政三組盃 あんせいみつぐみさかずき →羽子板娘
安中草三 あんなかそうざ →榛名梅香

【イ】

飯田の焼討ち いいだのやきうち →清水次郎長(内)
伊賀の水月 いがのすいげつ →荒木又右衛門
池田家騒動 いけだけそどう →岡山騒動
石地蔵 いしじぞう →大岡政談(内)
伊豆屋騒動 いずやそどう →畜生塚、人面蒼、怪談小町娘
伊勢の初旅 いせのはつたび →鯛屋政談、大岡政談(内)
一文惜しみ いちもんおしみ →五貫裁き
一本杉の仇討 いっぴんすぎのあだうち →針ヶ谷の仇討
鯛屋政談 いわしやせいだん →伊勢の初旅
因果小町 いんがこまち →蓮華往生

【ウ】

上田籠城 うえだろうじょう →真田三代記(内)
海坊主の怪 うみぼうずのかい →姫妃のお百(内)

[エ]

越後騒動 えちごそうどう → 忠士の誉、両越騒動(内)
 越前家仕官 えちぜんけしかん → 寛永三馬術(内)
 越前騒動 えちぜんそうどう → 両越騒動(内)
 江戸節お紺 えどぶしおこん → 佐野次郎兵衛(内)
 間魔堂の最後 えんまどうのさいご → 清水次郎長(内)

[オ]

扇町屋 おうぎまちや → 緑林五漢録(内)
 大阪屋花鳥 おおさかやかちょう → 島衛沖津白浪(内)
 大島屋騒動 おおしまやそうどう → 大岡政談(内)
 岡山騒動 おかやまそうどう → 池田家騒動
 桶狭間合戦 おけはざまのかっせん → 太閤記(内)
 おこよ源三郎 おこよげんざぶろう → 鳥追情史
 小田原仇討相撲 おだわらあだうちずもう → 寛政力士伝(内)
 男の花道 おとこのはなみち → 名医と名優
 お富与三郎 おとみよさぶろう → 切られ与三、依田の雁金
 音羽丹七 おとわたんしち → 音羽の滝
 尾張騒動 おわりそうどう → 黄金の鯨
 恩義の柵 おんぎのしがらみ → 銀行頭取殺し
 怨霊 おんりょう → 船幽霊

[カ]

海賊退治 かいぞくたいじ → 笹野名槍伝(内)
 怪談小町娘 かいだんこまちむすめ → 伊豆屋

騒動

柿の御意見 かきのごいけん → 太閤記(内)
 鍵屋政談 かぎやせいだん → 大岡政談(内)
 籠釣瓶 かごつるべ → 吉原百人斬
 鹿島の棒祭り かしまのぼうまつり → 天保水滸伝(内)
 霞のお千代 かずみのおちよ → 二人半兵衛
 片山騒動 かたやまそうどう → 碑文谷奇談
 仮名書き詫証文 かながきわびじょうもん → 赤穂義士(内)
 寛永御前試合 かんえいごぜんじあい → 武術の誉
 寛永三馬術 かんえいさんばじゅつ → 天下の三馬術、日本三馬術
 寛政曾我 かんせいそが → 小金ヶ原の仇討
 観音利生記 かののんりしょうき → 浅草寺の仇討
 雁風呂 がんぶろ → 水戸黄門(内)

[キ]

紀伊家の礎 きいけのいしずえ → 鉄砲献上、田宮坊太郎(内)
 祇園百人斬 ぎおんひやくにんぎり → 大丸屋騒動、浪花百人斬
 木曾土産銘刀奇談 きそみやげめいとungskだん → 銘刀捨丸、善悪二葉松
 喜八苺 きはちたばこ → 煙草屋喜八
 享保仇討 きょうほうあだうち → 山本貞婦伝
 享保五人白浪 きょうほうごにんしらなみ → 雲霧五人男
 享保一人曾我 きょうほうひとりそが → 大岡政談(内)
 切られ与三 きられよさ → お富与三郎、依田の雁金
 銀行頭取殺し ぎんこうとうどりがろし → 恩義の柵
 錦帯橋大仇討 きんたいきょうおおあだうち → 元和三勇士

金龍繩張大問答 きんりゅうなわばりおおも
んどう→太閤記(内)

[ク]

鯨裁判 くじらさいばん→大岡政談(内)

楠屋勢揃い くすやせいぞろい→赤穂義士
(内)

雲霧五人男 くもきりごにんおとこ→享保五
人白波

車がかり くるまがかり→甲越軍記

紅蓮の纏 ぐれんのまとい→は組小町

黒田の紋尽くし くろだのもんづくし→黒田
騒動(内)

[ケ]

月下の手裏剣 げっかのしゅりけん→鈴木主
水(内)

血判見届け けっばんみとどけ→木村長門
守(内)

検校と町奉行 けんぎょうとまちぶぎょう→
出世競べ

元和三勇士 げんなさんゆうし→錦帯橋大
仇討

玄治店 げんやだな→お富与三郎(内)

[コ]

恋の絵図面 こいのえずめん→赤穂義士
(内)

孝子の仇討 こうしのあだうち→小夜の中
山

荒神山 こうじんやま→清水次郎長(内)

幸助餅 こうすけもち→夫婦餅, 寛政力士
伝

小金ヶ原の仇討 こがねがはらのあだうち→
寛政曾我

黄金の鯨 こがねのしゃち→尾張騒動

五貫裁き ごかんさばき→一文惜しみ, 大
岡政談(内)

御金蔵破り ごきんぞうやぶり→千代田白
浪

湖水渡り こすいわり→太閤記(内)

木っ葉売り こっぱうり→野狐三次(内)

小西屋騒動 こにしやそうどう→てれめん
(テレメンテーナ物語), 大岡政談(内)

五福屋政談 ごふくやせいだん→本小町,
大岡政談(内), 玉菊灯籠

五平菩薩 ごへいぼさつ→浅間噴火余聞

小仏峠 こぼとけとうげ→緑林五漢録(内)

小牧山 こまきやま→太閤記(内)

小政の生立ち こまさのおいたち→清水次
郎長(内)

米櫃 こめびつ→横浜小僧殺し

金比羅代参 こんびらだいさん→清水次郎
長(内)

[サ]

堺屋騒動 さかいやそうどう→大岡政談
(内)

佐賀の怪猫 さがのかいびょう→鍋島の猫
騒動, 佐賀の夜桜

佐賀の夜桜 さがのよざくら→鍋島の猫騒
動, 佐賀の怪猫

笹川の花会 ささかわのはなかい→天保水滸
伝(内)

匙加減 さじかげん→人情匙加減, 大岡政
談(内)

指図違い さしずちがい→赤穂義士(内)

指手錠の件 さしてじょうのけん→大岡政談
(内)

佐竹騒動 さたけそうどう→秋田露(秋田
騒動)

佐野の刃傷 さののにんじょう→田沼騒動

小夜の中山 さよのなかやま→孝子の仇討

猿橋の血煙 さるはしのちけむり→国定忠治
(内)

笹屋政談(笹屋名主) さるやせいだん(さ

るやなぬし)→青砥政談(内)

三甚内 さんじんない→業平塚の由来

三方一両損 さんぼういちりょうぞん→大岡政談(内)

三方目出鯛 さんぼうめでたい→陸奥間違

[シ]

しじみ売り しじみうり→鼠小僧次郎吉(内)

賤ヶ岳の七本槍 しずがたけのしちほんやり→太閤記(内)

品川八人斬 しながわはちにんぎり→袖ヶ浦全盛鑑

芝居の喧嘩 しばいのけんか→幡随院長兵衛(内)

しばられ地蔵 しばられじぞう→大岡政談(内)

四十七士伝 しじゅうしちしでん→赤穂義士伝

十八ヶ条申開き じゅうはっかじょうのもうしひらき→赤穂義士(内)

出世競べ しゅっせくらべ→検校と町奉行
出世の楽屋草履 しゅっせのがくやぞうり→
紅緒の草履

出世の盃 しゅっせのさかずき→馬場の大盃
出世の高松 しゅっせのたかまつ→水戸黄門(内)

出世の富籤 しゅっせのとみくじ→無欲の出世

出世の春駒 しゅっせのはるこま→寛永三馬術(内)

正直政談 しょうじきせいだん→大岡政談(内)

上州屋 じょうしゅうや→天保六歌撰(内)

白子屋政談 しろこやせいだん→大岡政談(内)

心中奈良屋 しんじゅうならや→清水次郎

長(内)

神道水滸伝 しんとうすいこでん→天明白浪伝

[ス]

水神の森仇討 すいじんのもりあだうち→(俠客)三甚内

姿エビ楼 すがたえびろう→左甚五郎(内)

鈴ヶ森の仇討 すずがもりのあだうち→大岡政談(内)

隅田川乘切 すみだがわのりきり→天晴れ忠臣

[セ]

勢揃い(楠屋勢揃い)せいぞろい(くすやせいぞろい)→赤穂義士(内)

関宿船 せきやどぶね→緑林五漢録(内)

善悪二葉松 ぜんあくにようまつ→銘刀捨丸、木曾土産銘刀奇談

浅草寺の仇討 せんそうじのあだうち→観音利生記

[ソ]

壮士の恋慕 そうしのれんぼ→大岡政談(内)

祖師堂の由来 そしどうのゆらい→日蓮記(内)

袖ヶ浦全盛鑑 そでがうらぜんせいかがみ→品川八人斬

[タ]

大黒天 だいこくてん→左甚五郎(内)

大徳寺焼香の場 だいとくじしょうこうのは→清水次郎長(内)

大丸屋騒動 だいまるやそうどう→祇園百人斬、浪花百人斬

高尾山の出遇 たかおさんのであい→三甚内(内)

高田馬場 たかだのばば→赤穂義士(内)
宝の入船 たからのいりふね→紀伊国屋文
左衛門(内)
竹の水仙 たけのすいせん→左基五郎(内)
龍ノ口法難 たつのくちほうなん→日蓮記
(内)
伊達騒動 だてそうどう→青葉山評定
田中の村雨 たなかのむらさめ→緑林五漢
録(内)
田沼騒動 たぬまそうどう→天明七星談
煙草屋喜八 たばこやきはち→喜八莩, 大
岡政談(内)
玉菊灯籠(吉原八景) たまぎくどうろう
(よしわらはっけい)→大岡政談(内), 五
福屋政談

[チ]

血煙荒神山 ちけむりこうじんやま→清水次
郎長(内)
畜生塚 ちくしょうづか→伊豆屋騒動, 人
面蒼
忠考二筋道 ちゅうこうふたすじみち→大島
屋騒動(内)
忠士の誉 ちゅうしのほまれ→越後騒動
朝鮮征伐 ちようせんせいばつ→太閤記(内)
長短槍試合 ちようたんやりじあい→太閤記
(内)
千代田白浪 ちよだしらなみ→富蔵藤十郎

[ツ]

辻占売り つじうらうり→乃木將軍(内)

[テ]

鉄砲献上 てっぽうけんじょう→紀伊家の
礎, 田宮坊太郎(内)
手振り坊主 てふりぼうず→小夜衣草紙
(内)
寺坂の注進 てらさかのちゅうしん→赤穂義

士(内)
てれめん(テレメン物語)→小西屋騒動,
大岡政談(内)
天下の三馬術 てんかのさんばじゅつ→寛永
三馬術, 日本三馬術
天の網打 てんのあみうち→加賀騒動(内)
天日裁き てんびさばき→大岡政談(内)
天保俠客伝 てんぼうきょうかくでん→天保
水滸伝
天保水滸伝 てんぼうすいこでん→天保俠客
伝
天明白浪伝(天明水滸伝) てんめいしらな
みでん(てんめいすいこでん)→神道水滸
伝
天明七星談 てんめいしちせいだん→田沼騒
動
天竜川大仇討 てんりゅうがわのおおあだう
ち→吉岡百人斬

[ト]

稲荷堀 とうかんぼり→お富与三郎(内)
徳利の別れ とくりのわかれ→赤穂義士
(内)
富蔵藤十郎 とみぞうとうじゅうろう→千代
田白浪
富田屋政談 とみたやせいだん→大岡政談
(内)
豊川利生記 とよかわりしゅうき→大岡政談
(内)
鳥追情史 とりおいじょうし→おこよ源三
郎

[ナ]

長篠合戦 ながしののかっせん→太閤記(内)
浪花百人斬 なにわひやくにんぎり→祇園百
人斬, 大丸屋騒動
鍋島の猫騒動 なべしまのねこそうどう→佐
賀の夜桜, 佐賀の怪猫

業平塚の由来 なりひらづかのゆらい→三甚内
南部坂雪の別れ なんぶざかゆきのわかれ→赤穂義士(内)

[ニ]

仁吉焼香 にきちしょうこう→清水次郎長(内)
二度目の清書 にどめのきよがき→赤穂義士(内)
日本三馬術 にほんさんばじゅつ→寛永三馬術、天下三馬術
人情匙加減 にんじょうさじかげん→匙加減、大岡政談(内)
人面蒼 にんめんそう→伊豆屋騒動、畜生塚

[ネ]

眠り猫 ねむりねこ→左甚五郎(内)

[ハ]

は組小町 はぐみこまち→紅蓮の纏
羽子板娘 はごいたむすめ→安政三組盃
旗本五人男 はたもとごにんおとこ→本所五人男
鉢の木 はちのき→時頼廻国記(内)
馬場の太盃 ばばのたいはい→出世の大盃
はまぐりの吸物 はまぐりのすいもの→小夜衣草紙(内)
針ヶ谷の仇討 はりがやのあだうち→一本杉の仇討
榛名梅香 はるなのうめが→安中草三

[ヒ]

肥後の駒下駄 ひごのこまげた→誉の駒下駄、伏見桃山仇討
人の一心 ひとのいっしん→無筆の出世
人肌地藏 ひとのはだじぞう→水戸黄門(内)

佛佛退治 ひびたいじ→岩見重太郎(内)
碑文谷奇談 ひもんやきだん→片山騒動
瓢箪屋政談 ひょうたんやせいだん→大塩政談(内)

[フ]

伏見桃山仇討 ふしみももやまのあだうち→肥後の駒下駄、誉の駒下駄
武術の誉 ぶじゅつのはまれ→寛永御前試合
二人長兵衛 ふたりちょうべえ→幡随院長兵衛(内)
二人半兵衛 ふたりはんべえ→霞のお千代
船幽霊 ふなゆうれい→怨霊
振袖火事の由来 ふりそでかじのゆらい→紀伊国屋文左衛門(内)
古市十人斬 ふるいちじゅうにんぎり→油屋騒動

[ヘ]

紅緒の草履 べにおのぞうり→出世の樂屋草履

[ホ]

奉書試合 ほうしょじあい→伊賀の水月(内)
木履の由来 ぼくりのゆらい→水戸黄門(内)
細川血達磨 ほそかわのちだるま→名誉血達磨
誉の大久保 ほまれのおおくぼ→矢代騒動
誉の駒下駄 ほまれのこまげた→肥後の駒下駄、伏見桃山仇討
堀内内祖師堂の由来 ほりのうちそしどうのゆらい→日蓮記(内)
ポロ忠売り出し ぼろちゅうりだし→国定忠治(内)
本所五人男 ほんじょごにんおとこ→旗本五

人男
本町小町 ほんちょうこまち→五福屋政談、
大岡政談(内)

[マ]

迷子札 まいごふだ→大岡政談(内)
薪割り まきわり→赤穂義士(内)
間違いの婚礼 まちがいのこんれい→太閤記
(内)
招き猫 まねきねこ→左甚五郎(内)
万両婿 まんりょうむこ→大岡政談(内)

[ミ]

三方ヶ原軍記 みかたがはらくんぎ→太閤記
(内)
水呑み龍 みずのみりゅう→左甚五郎(内)
三井の大黒 みついのだいこく→左甚五郎
(内)
美濃合戦 みのかつせん→太閤記(内)
三村の薪割り みむらのまきわり→赤穂義
士(内)

[ム]

陸奥間違い むつまちがいはり→三方目出鯛
無筆の出世 むひつのはり→人の一心
無欲の出世 むよくのはり→出世の富
籤

[メ]

名医と名優 めいいとめいゆう→男の花道
銘刀捨丸 めいとうすてまる→木曾土産銘
刀奇談・善悪二葉松
名誉血達磨 めいよのちだるま→細川血達
磨
夫婦餅 めおともち→幸助餅、寛政力士伝
(内)

[モ]

最上大評定 もがみだいひょうじょう→明烏
十勇士
紋尽くし もんづくし→黒田騒動(内)
紋尽くし もんづくし→曾我物語(内)

[ヤ]

焼栗村の由来 やきぐりむらのゆらい→日蓮
記(内)
矢代騒動 やしろそうどう→誉の久保
柳沢騒動 やなぎさわそうどう→柳沢昇進録
矢矧の橋 やはぎのはし→太閤記(内)
山鹿送り やまがおくり→赤穂義士(内)
山形屋 やまがたや→国定忠治(内)
山崎合戦 やまざきのかっせん→太閤記(内)
山内鹿之助 やまのうちしかのすけ→明石志
賀之助
山村座の喧嘩 やまむらざのけんか→幡随院
長兵衛(内)
山本貞婦伝 やまもとていふでん→享保仇討

[ユ]

雪の両国橋 ゆきのりょうこくばし→赤穂義
士(内)
雪の別れ ゆきのわかれ→赤穂義士(内)
雪の別れ ゆきのわかれ→中江藤樹(内)
夢と寝言の仇討 ゆめとねごとのあだうち→
大岡政談(内)

[ヨ]

横浜小僧殺し よこはまこぞうごろし→米櫃
吉岡百人斬 よしおかひやくにんぎり→天竜
川大仇討
吉田御殿 よしだごてん→番町皿屋敷(内)
吉田宿焼討 よしだじゆくやきうち→慶安太
平記(内)
吉原百人斬 よしわらひやくにんぎり→籠釣
瓶
夜鷹蕎麦売り よたかそばうり→赤穂義士

(内)

夜鷹煙草 よたかたばこ→大岡政談(内)

依田の雁金 よだのかりがね→切れ与三郎,

お富与三郎

[リ]

両国橋雪の別れ りょうごくばしゆきのわか

れ→赤穂義士(内)

[レ]

蓮華往生 れんげおうじょう→因果小町

[ロ]

良弁杉の由来 ろうべんすぎのゆらい→三十

三所観音靈驗記

[ワ]

和談破れ わだんやぶれ→川中島合戦(内)

詫証文 わびじょうもん→赤穂義士(内)

補注

『太閤記』の豊臣秀吉(日吉丸・木下藤吉郎)など、誰もが知る歴史上の有名人は除外した。また、『西遊記』、『曾我物語』、『太平記』、『里見八犬伝』など文芸物の講談本も多くあり、引いたものもあるが、大部分は他に参考になる資料があると判断して省略した。同一人物を「→」で記したものもある。同じ「～勇士」でも、講談本によって登場人物名が異なることもある。また、例えば「良弁」は通常「ろうべん」と読まれるが、講談の伝統では、「りょうべん」と読むのが正しい。このような例は、他にもあるだろうが、本稿では便宜上、一般に通行している読み方で通じた。尚、講談本の題名ならびに文中の人名などの表記において、次のような混用が見られる。

い(伊 猪) えい(英 栄) かく(角 覚) かわ(川 河) がん(岸 巖) きり(霧 切) ぐん(郡 軍) ご(五 伍 吾) さ(佐 左) さか(坂 阪) さが(嵯峨 佐賀) じ(二 次 治) じ(自 児) じゅ(樹 寿) じゅう(十 重) すけ(助 介) ぞう(藏 三) た(多 太) だい(代 台) とら(虎 寅) ば(葉 馬) ばた(畑 端) はな(花 華) はや(早 速) へ(辺 逸) へい(兵衛 平) ま(間 真) み(三 味) もも(桃 百々) もり(森 毛利 母里) や(矢 屋) やな(梁 柳) りゅう(流 龍 柳)
(井 比)(学 角)(白 平)

最後に、講談本には次のような熟語が頭に附いて、次に人名等が続く物が多いことを覚えておくと検索の際の手がかりになる。

『仇討』、『怪談』、『義賊』、『義民』、『俠客』、『豪傑』、『孝子』、『孝女』、『後日』、『最期(最後)の』、『実説』、『実録』、『出世』、『新説』、『新編』、『政談』、『増補』、『其後の』、『続』、『忠孝』、『忠士』、『後の』、『誉』、『名誉』、『勇士』等々。

・講談登場人物索引と講談小題・異名索引を作成するに当たって、主に以下の資料を

参照した。

講談社『定本講談名作全集』別巻所収「名作講談解題」

吉沢英明編著『明治期講談速記本集覧』

延広真治「講談速記本ノート」

雑誌『講談研究』

(なかごみしげあき 元参考課非常勤職員)

・付記

脱稿後、旭堂小南陵氏の『続・明治期大阪の演芸速記本基礎研究』（たま出版・2000年5月）が発行された。二百四十種近くの講談の梗概が記された労作であり、前述『定本講談名作全集』別巻「名作講談解題」を補ってあまりある内容。講談研究の参考文献としてここでまた一つ心強い必携の書が増えたと言えよう。